

我が校のものがたり

— かけがわ学力向上ものがたり（別冊） —

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを、学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにしたら学力の向上が図れるか、その理念や方法等を「かけがわ学力向上ものがたり」として平成26年3月に策定しました。

2年目を迎える本年度は、これまでの実践を基に、かけがわ型スキルを生かした新たな学びのプロセスをとおして、積極的な授業改善に取り組み、子どもたちの確かな学力の向上を推進します。

各学校においては、児童生徒の学習状況に基づいた、学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成しました。これを基盤として、全教職員が共通理解と共通実践をとおして、組織的な協働を図っていきます。

さらに、学校だけでなく、家庭力・地域力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。



平成27年6月
掛川市教育委員会

目 次

頁

【小学校】

1	日坂小学校	2
2	東山口小学校	4
3	西山口小学校	6
4	上内田小学校	8
5	城北小学校	10
6	第一小学校	12
7	第二小学校	14
8	中央小学校	16
9	曾我小学校	20
10	桜木小学校	22
11	和田岡小学校	24
12	原谷小学校	26
13	原田小学校	28
14	西郷小学校	30
15	倉真小学校	32
16	土方小学校	34
17	佐束小学校	36
18	中小学校	38
19	大坂小学校	40
20	千浜小学校	42
21	横須賀小学校	44
22	大淵小学校	46

【中学校】

23	栄川中学校	50
24	東中学校	52
25	西中学校	54
26	桜が丘中学校	56
27	原野谷中学校	58
28	北中学校	60
29	城東中学校	62
30	大浜中学校	64
31	大須賀中学校	66

小 学 校

掛川市立日坂小学校

平成27年度 我が校のものがたり

日坂小の子どもたち

- 素直で明るく、何事にも真面目に取り組む。
- 授業や学校に来ることを楽しみにしている。地域行事等にも進んで参加している。
- 自主性や積極性、リーダーシップの発揮、創造力等伸ばしていきたい。
- 聴く力・話す力・書く力をつけて、
語彙を豊かに自信を持って表現させたい。

研修テーマ

栄中学校区合同研修テーマ

じっくり考え、表現できる子～進んでかかわり、自分を深める～

めざす子どもの姿

- ①自分の思いや考えを**わかりやすく表現する力**
～学年相応の言葉の力を養い、正しく理解・表現する～
- ②考えを比べながら聴き、**深め合う力**
～つけたい力を意識して、友達とかかわることで自分を高める～



**校内研修(日々の授業・研究授業・朝活動等)で
つけたい力を明確にして ⇒ 学力向上**

計画 (P l a n)

【研修テーマに向かって】

①わかりやすく表現する力をつけるために！

【自分の思いや考えをより**わかりやすく表現**することができる力】

⇒学習の基礎となる語彙力、

言葉の特徴やきまりを正しく理解する力を伸ばす！



②深め合う力をつけるために！

【友達と**積極的にかかわり**、自分の学習に生かそうとする力】

⇒課題を明確にし、

言語によるかかわりの場を意図的に設定する！



掛川市立東山口小学校 平成27年度 我が校のものがたり

「樹木が育つように」子どもたちの学びを支えたい

東山口小学校の子どもたちは真面目に一生懸命学ぼうとする子が多い。単学級で生活しているので話し合い活動も活発にできる。放課後学習「寺子屋」やチャレンジテストに取り組むことで、基礎基本の力もついてきた。しかし、そこには個人差があり、今後も個別に対応していく必要がある。また、学習に対して受け身なところがあり、自ら学ぼうという意識が低い。これらの実態を踏まえ、「樹木が育つように」子どもたちの学びを支えていくのが本校の学力向上物語と考える。



学習の基盤づくり（学びの幹をつくり、枝葉を生い茂らせるために）

⑤ 学習支援環境＜寺子屋(放課後学習支援教室)＞

- ・毎週月曜日の放課後に学習支援教室「寺子屋」を設定。児童一人一人に個別の支援を行う。

○内容例：国語・算数の復習、ことわざや文法学習、高学年では、読解力を高める学習、本年度より作文の段階的指導を取り入れる。

⑤ 学習支援環境＜夏休み寺子屋＞

- ・夏季休業中に3日間、「夏休み寺子屋」の日を設定。一斉学習で習得が不十分な児童や家庭学習の習慣がつかない児童等を対象に全職員で個別指導に当たる。
合わせて「水泳特訓」（泳げない子の水泳指導）を実施。

④ 校内自主テスト

年間3回の国語・算数チャレンジテストを実施。読み書き計算力の基礎や応用力の定着を狙い、児童は目標合格点に達するまで繰り返しチャレンジ、基礎的な力を伸ばしている。本年度は、学年に応じた作文指導を取り入れていく。

② 「発表名人表」の取組

聴き方・話し方をレベルアップさせるために、全校共通で「発表名人表」に取り組む。常に児童に意識させ取り組むことで、話す力・聴く力を育てていく。



③ 語彙を豊かにする指導

【言葉の指導】

言葉にこだわった聴き方、話し方、読み取り方や辞書の活用。「今月の詩」の暗唱などの取組、また、条件をつけたりキーワードを入れたりした作文指導を、毎日の学習カードや週末の作文ノート、ワークシートなどを利用して行う。学年の目標に応じた指導をする。

低：順序を整理し、簡単な構成を考えて書く。

中：段落相互の関係に注意して書く。

高：文章全体の構成の効果を考えて書く。

【読書指導】

毎朝10分間の読書タイム。学級文庫には「この本、読もう」（国語教科書巻末付録参照）を置き、推薦図書にふれる環境を整えている。学年に応じた読書目標、記録の記入、職員やボランティアによる読み聞かせや親子読書を実施。

① 安心して学び合える学級づくり

本校が子どもの学力向上に向けて一番大切にしていきたいことは、学級づくりである。安心して自分の意見が言える、学び合える、支持的風土の醸成を目指して全職員で取り組んでいく。



職員研修の充実（学びの根を確かめ、授業改善の推進のために）

① 校内研修の活性化

研修の窓口教科を「国語科」とし、願う子どもの姿を目指して研修に取り組んでいる。

【テーマ】 「進んで表現し、深め合う授業」

願う姿 **表現**

自分の考えを進んでわかりやすく伝える。

(低) 話題に沿って順序よく話す (中) 相手や目的に応じて、筋道を立てて話す

(高) 言葉を選んで使い要点をまとめて話す

深め合い 友達の考えを自分と比べながら聞き、考えて書いたり話したりする。

(低) 言葉を豊かに使い順序よく話す (中) 書き手の明確さなどについて意見を

のべ合う (高) 言葉を選んで使い要点をまとめて話す



【静岡県の授業改善の視点】

- 1 押さえる：学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。
- 2 仕掛ける：付けたい力に沿って効果的な手だてをしかける。
- 3 確かめる：子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。

【掛川市の学びのプロセスを取り入れた東山口授業づくり三原則】

- ① 焦点化：学習の見通しを持たせる。
- ② 互いの考えを伝え合い発展させる
- ③ 視覚化：板書の構造化。掲示物、教具の工夫。



② 栄川学園共通の取組

【互いに学び合う授業公開】

年間3回の授業公開と3回の保育公開を行い、1園3校の教諭が3グループに分かれて学び合っている。共通のテーマである「じっくり考え、表現できる子」の育成を目指し、各校がどのような手立てを持って授業づくりをしているのか、その具現を見て話し合う一貫教育研修会を年間3回予定している。教師は12年間を見通した視点で子どもの学び方について研修を深める。

【学習ルール統一】

- ・「話す・聞く」ルール……友達の方を向いて話す聞く、聞くときは聞く、書くときは書く。
- ・「ノート」のルール……日付を書く、詰めて書かない、学習課題（学習問題）は赤で囲む。全ての教科で考えの足跡を残す、「振り返り」自分の考えの軌跡を書く。
- ・「家庭学習」のルール……中学校区一斉に作成した「家庭学習の手引き」を全戸に配布し、幼稚園から中学校までの家庭学習の仕方を保護者にも理解していただき、家庭学習の充実を図る。

東山口小学校は、全職員が全児童を理解し関わることで安定した学校づくりがなされている。地域の協力も得られ、栄川学園の園・学校とも連絡を密にとることができる。この小規模校の利点を生かして子どもたちに質の高い学びを保障していく。

掛川市立西山口小学校

平成27年度 我が校のものがたり

1 「我が校のものがたり」がめざすものは・・・

～こんな西山口の子を育てたい！～

- (1) 基本的な生活習慣を身につけた子。
- (2) 自分の夢を実現するために、自ら学ぶ子。
自分を成長させるための試練に立ち向かう子。
- (3) 協力することの大切さや他者を思いやる心をもった子。

～だから、私たち教職員は！～

- (1) 子ども一人一人を大切にします！
- (2) 謙虚に学び続けます！
- (3) 支え合い、学び合う「チーム西山口教職員」を構築します！保護者・地域の方々とのパートナーシップを大切にします！



～そのために、27年度西山口小学校は！～

重点目標『相手の思いを受けとめ 自分の思いを伝えよう』を設定しました。子ども一人一人の学びを大切にし、言語活動の充実を図ることによって、目標達成を目指します。

2 「我が校の子どもたち」の今を見つめると・・・

～H26アンケート結果より～

- | | |
|------------------------|--------|
| (1)「進んであいさつができる子」 | ・・・96% |
| (2)「人の話を目と心を向けて聞いている子」 | ・・・96% |
| (3)「自分の考えを進んで伝えられる子」 | ・・・84% |
| (4)「楽しく学校に来ている子」 | ・・・99% |



3 そこで、学びのものがたりを次のように考えました！

～『言語活動の充実により学力を伸ばす』ためのものがたり～

- (1) 国語科：単元を貫く言語活動とねらいを明確にした課題を設定し、つきたい力を伸ばします。

- (2) 算数科：「何を」「何のために」「どのように」学ぶのかを明確にして授業を構想し、言語活動によって、つけたい力と共に思考力・判断力・表現力を高めます。
- (3) 他教科：目標達成に有効な言語活動と、ねらいを明確にした課題設定を工夫して授業を構想します。



～『基礎基本の確実な定着』のためのものがたり～

学力向上のための取組	具体的な方法
朝活動「ぐんぐんタイム」	毎週(金)朝の15分間で、基礎学力の定着を目指した国語・算数の授業実施。
朝活動「声だしタイム」	毎週(月)朝の15分間で、伝え合いの基礎となる「声だし」や「話し方」等の基礎を養う活動の実施。
国語・算数定期復習テスト	年5回、テスト期間を設定して復習テストの実施。
放課後「とことん学習」	年間数回程度、放課後に定着が充分でない児童に対して、算数教室の実施。
夏休みチャレンジ教室	夏季休業中に3日間、国語・算数の定着が充分でない児童に対して、学習指導の実施。

～『家庭と学校のパートナーシップにより学びを支える』ためのものがたり～

☆各家庭が親子で『我が家の家庭学習ものがたり』を作成し、実践します。

西山口小「()家の家庭学習ものがたり」を各家庭で作成する際の資料として、各学年の基準を●で、具体例や選択肢を★で下に示しました。
我が家の事情や実態に合った「家庭学習ものがたり」を親子で相談しながら作成しましょう。カラー版は各家庭で掲示をしておきます。白黒版は担任に提出をします。両方とも、鉛筆で記入しておきます。(定期的に見直しや振り返りを行い、その都度、変更点があれば書き換えていただくようにするためです。)
西山口小のすべての家庭が、よりよい家庭環境・学習環境で子どもたちの学びを支え、向上させていきたいと思います。

作成する際の資料

学年	学習環境	時間帯	時間の目安	課題の内容
1,2年生	●同じ場所で(台所、居間、子ども部屋など)場所は親子で決める ●「ながら」禁止(TV、おかし) ★机の上の整とん	★原則、帰宅後すぐがお勧め ※親子で決める	●目安は学年×10+10分	<1年生> ●平日3セット(①音読、②計算カード、③漢字が計算のドリル) <2年生> ●平日3セット(①音読、②計算カード、③漢字が計算のドリル)
3,4年生	●同じ場所で ※親子で決める ●「ながら」禁止(TV、おかし) ★机の上の整とん	★帰宅後すぐ ※夕食前に ★曜日によって音読の後に	●目安は学年×10+10分	<3年生> ●平日3セット(①音読、②計算カード、③漢字が計算) <4年生> ●平日3セット(①音読、②計算カード、③漢字)
5,6年生	●同じ場所で ※親子で決める ●「ながら」禁止(TV、スマホ、音楽) ★机の上の整とん	●習い事などの事情に合わせて曜日ごと自分で時間帯を設定する	●目安は学年×10+10分 ★目安プラス()分	●平日3セット(①音読、②計算カード、③漢字) プラス自学 ●学習計画表を作成する

5,6年生用

高学年：自学のメニューは・・・

親のかわり方は・・・

我が家の学習環境づくりは・・・

家族のそろろ(月)曜日の(子)母～(女)姉は、家族で「トランプ」をしてお楽しみします。

ノーマディアタイム曜日と時間帯も親子で決めるメニュー

我が家の学習時間・時間帯は・・・

家庭(勉強)の取組メニューは・・・

平日家読 30分 休日家読 60分

＜70分＞
月 16:00～
火 16:30～
水 17:10～(70分)19:00～(90分)
木 16:30～(50分)18:30～(70分)
金 17:10～
土日 9:00～

学校の課題(問題)は・・・

①音読
②計算
③漢字
④高学年は自学にチャレンジ

その日の授業の復習・音字分野の復習
・テスト勉強・明日の予習

音読・お母さんの前で
・学習計画表を親子で作成
・ノートは頭5回見る

リビングで学習
・ながら勉強禁止
・机の整とん

各家庭で作成・掲示したものがたり

掛川市立上内田小学校

平成27年度 我が校のものがたり

「できた!」「わかった!」

言語活動

- 読書活動
 - ・朝の読書・読み聞かせ
 - ・学校図書館の有効活用
 - ・移動図書館、市内図書館の利用促進
- 図書室の本や資料の充実
 - 総合的な学習や各教科での調べ学習などに活用する図書や資料を揃える
- 子ども新聞の購読、活用
 - 新聞を通して社会への関心を持ち、読むことに慣れる
- 朝活動の作文タイムの活用
 - 「条件にあった文」「短時間」を目標にして書くことに慣れる

- 筋道を立てて論理的に考える力
- 互いに考えを伝え合う力
- 自分の考えを自分の言葉で表現する力
場を設定し、力を育てる

学ぶ意欲

- 「学びの時間」の充実
 - ・金曜日放課後の補充・発展学習
 - ・個に応じた指導
- 教材研究の時間の確保
 - ・金曜日放課後に教材研究の時間の設定
 - ・教材教具の準備
- 掛東中生によるサマースクールの実施
 - ・教師と掛東中生（本校の卒業生）による夏季休業中の補習学習
- 授業を見る週間（年間3期）
 - ・上の学年の授業を子どもが見る

- 朝の活動
 - ・ドリルタイム（漢字・計算）の補充学習
 - ・国語の音読、詩の暗唱
 - ・朝のスピーチ

学力向上

- つきたい力の明確化
 - 指導と評価の一体化 「学習問題」→「学習のまとめ」→力をつける
- TT授業・個別指導
- 可視化…わかりやすい板書・ICT機器の活用・ノート指導
- 個の変容と見取り
 - ・まとめの段階での実態（ノート、発言、練習問題）
 - ・小テスト、単元別テストによる数値化した状況把握
 - ・授業のまとめを自分の言葉で書く



【家庭学習】

- 家庭学習の習慣づくり（家庭学習の手引き）
 - ・低学年30分 中学年40分 高学年1時間以上
 - ・かみうちだの学びの約束
 - ・生活リズムの見直し、ノーメディアデー
「早寝、早起き、朝ごはん」

【にこじろう運動】

- 子どもに自信をつけさせるために自己肯定感や自己有用感を持たせ、自尊感情を高める。
 - ・子どものよさやよい表れを称揚
 - ・子どもの理解、称揚の質的向上
 - ・担任、校長、家庭からの称揚

1 児童の実態（H26年度全国学力学習状況調査より）

- ・国語は、漢字や文法などの基本的なものはできるが、文章の読み取りができない。特に、短時間で長文を読み、考える力が弱い。
- ・算数は、四則計算などの基本的なものはできるが、筋道を立てて思考力を問う問題に弱い。

2 「できた！」「わかった！」がある授業

(1) つけたい力の明確化

- ・本時で何を学習するのか、何を考えるのかはっきりさせる。→【学習問題】
- ・思考を助けるために、学習していることをわかりやすく表す→【可視化】
わかりやすい板書・ICT機器の活用・ノート指導
- ・個への支援→【TT授業】
- ・個の変容と見取り→【学習のまとめ】
まとめの段階での実態把握（ノート、発言、練習問題）
小テスト、単元別テストによる数値化した状況把握

(2) 授業展開の工夫

- ・子どもが興味を持つ導入
- ・早い段階での学習問題の提示
- ・追求する時間の配分（考える・調べる・話し合う）
- ・十分なまとめの時間の確保（わかったことを自分の言葉で書く・練習問題）

3 言語活動の充実

(1) 「読む」力の向上

- ・朝の読書、読み聞かせの時間の充実 →読み聞かせボランティアの活用
図書館司書の活用
- ・図書室の本や資料を整備→「読みたい」という欲求の喚起、調べ学習に対応
- ・子ども新聞の購買、活用→社会に関心を持つ、読むことに慣れる

(2) 「書く」力の向上

- ・作文タイム（朝活働週1回）の時間の活用→条件に合った文、短時間
- ・授業のまとめの時間→自分の言葉で書く
- ・家庭学習の日記→毎日書き続けることで、書くことに慣れる

(3) 「話す・聴く」力の向上

- ・筋道を立てて考える力→事実や既習事項等から考え、説明する。
- ・互いに考えを伝え合う力→考えを発展させる。
- ・自分の考えを自分の言葉で表現する力→体験から。情報を分析・評価して。

4 学ぶ意欲を持たせるための環境

- ・「学びの時間」→毎週金曜日の放課後、補充・発展的学習。個別支援。
- ・「にこじろう運動」→自信をつけさせる。子どものよさやよい表れを認め、全校に広める。学校と家庭の両方で称揚する。
- ・家庭・地域との連携→家庭学習の見届け・基本的生活習慣の確立・ノーメディアデー（毎月15日）の設定・地域の人材活用
- ・夏休みの「サマースクール」→卒業生の掛東中生や教師による補習学習。先輩に教わることが意欲につながる。
- ・教師の研修→教材研究の時間の設定。気楽に相談できる職員集団。



掛川市立城北小学校

平成27年度 我が校のものがたり

(序) 今までの本校の児童

城北小ではどの学級も落ち着いて授業に取り組み、自分の考えを深め、学びに浸る子どもの姿が多く見られる。そして、思いや考えを他に伝えようと夢中になる子どもが多い。全国学力・学習状況調査でも、毎年、国語・算数共に県・全国平均を上回ることが多く、これは城北小の子どものよさと職員の熱心な指導が融合した成果である。特にこれまで取り組んできた「かがやき賞」により、子どものよさを見取り、認める教育が、子どもの自己肯定感、自尊感情を育ててきたと言える。→本校のよさ

しかし、自分の考えをもてても、それを表現することの苦手な子どもがいたり、積極的な一部の子どもだけで学び合いが展開されたりすることも見られた。→本校の課題

平成27年度 城北小のものがたり

研究主題 学び合い高め合う授業づくり

～だれにでもやさしい学校、だれもがわかる授業による「確かな学力」の育成～

研修の視点

- ①夢中になって学ぶ学習問題の設定
- ②他と交流する中で自己の考えを深めたり高めたりする「学び合い」の実現
- ③学ぶ意欲や関心が高まり、基礎・基本を確実に定着できる授業づくり



・ 総合的に取り組む「学校力」を高める

①授業過程の再構築 ②言語活動の充実 ③基礎的・基本的な知識・技能の習得 ④道徳教育の充実 ⑤読書活動の充実

⑥地域の人から学ぶ活動 ⑦食育の充実 ⑧ユニバーサルデザインの授業の充実 ⑨家庭(地域)への発信と連携

・ みんなが参加し、みんなわかる、みんなできる授業をめざす

・ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、**じょうほく授業づくり**

じょうほく生活づくり を作成し、全校体制で取り組む

①「かけがわ型スキル」の育成

②どの子にも「確かな学力」を身に付けさせる

③だれにでもやさしい学校、だれもがわかる授業をめざす

ユニバーサルデザインの視点を城北小の授業の基盤に!

「かけがわ型スキル」をもとに城北小学校の「新たな学びのプロセス」を構築する (その1～その9)



その1 授業過程の再構築

- 押さえる…つきたい力・ねらいを明確にした授業
- 仕掛ける…主体的にかかわる中で自己の考えを深めたり高めたりする「学び合い」の実現
- 確かめる…子どもが学びを実感できる振り返りの場の設定

その2 言語活動の充実

- 国語科…単元を貫く一連の課題解決的な言語活動
※金じろうタイム…「書く力をつける」活動 ※スピーチタイム…「話す力をつける」活動
- 各教科…国語で培った言語能力を活用

その3 基礎的・基本的な知識・技能の習得

- 授業で基礎・基本の定着を丁寧に行う ○授業で「つきたい力」を明確にする
- 本校独自の「チャレンジテスト」による基礎・基本の徹底した定着
- 宿題の質・量の向上や家庭学習充実のための家庭への働きかけ

その4 道徳教育の充実

- 心の教育の充実（自尊感情の醸成 人間関係力を高める 話し合い活動の活発化） ○地域の人材活用
- 「かけがわ道徳」の活用…「なるほどなっとく 金次郎さん」「この人に学びたい -掛川の偉人ものがたり-

その5 読書活動の充実と図書室を活用した授業実践

- 読書を活性化させる活動…読書の習慣化 朝読書の充実 読書ボランティアによる読み聞かせ
- 図書室を活用した授業実践…授業での読書ボランティアとの連携

その6 地域の人から学ぶ活動

- 「地域の教育力を学習へ」…冀北学園（地域コーディネーター）との連携
地域の方から生き方を学ぶ 「市の教材の活用」

その7 食育の充実

- 食を通して子どもたちの心と体を育てる ○保護者の方々への啓発…「健康食育の日」

その8 ユニバーサルデザインの授業の充実

- ユニバーサルデザインの教育 ○学びのユニバーサルデザイン

その9 家庭（地域）への発信と連携

- 家庭への発信…各種たより ○家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」
- 学校生活の約束…「城北小学校生活の約束」 ○あいさつ活動の充実

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「授業づくり」「生活づくり」を基盤にして、「かけがわ型スキル」をもとに、教師がつきたい力、ねらいを明確にする。そして、子どもが主体的に他とかかわりをもつ授業を構想して、学びを実感できる振り返りの場を十分に確保していくことにより、子どもたちが「確かな学力」を身に付け、学び合い高め合う授業を行っていく。

掛川市立第一小学校

平成27年度 我が校のものがたり

学校教育目標 花いっぱい 笑顔いっぱい 活気いっぱい

(やさしさの花いっぱい) (できた、わかったの笑顔いっぱい) (もう一歩がんばる活気いっぱい)

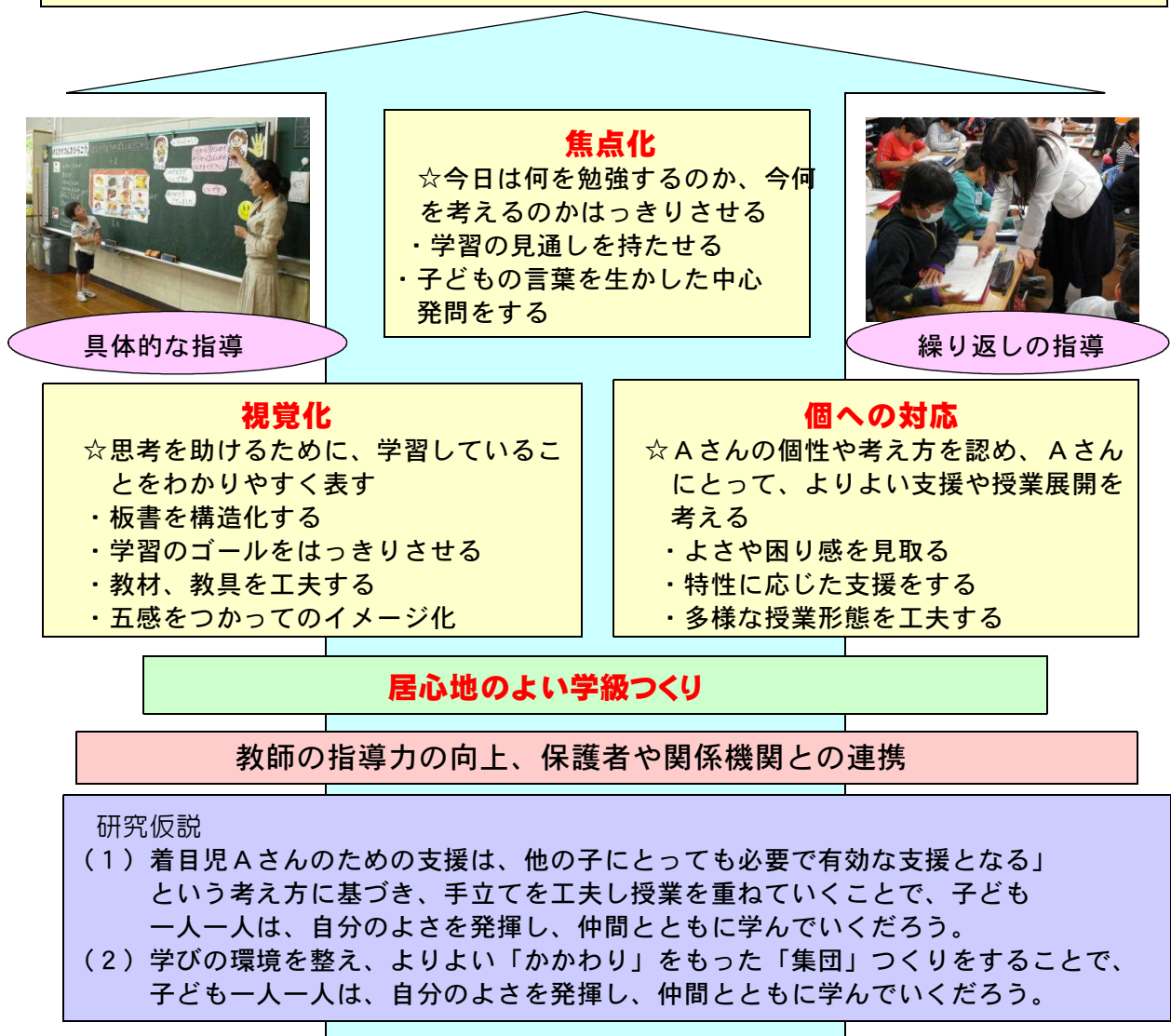
研修主題 自分のよさを発揮し ともに学ぶ子の育成

～「学びのユニバーサルデザイン」の視点に立った授業改善～

掛一小で大切にしている指導方針

- 子どもを変えるのは「日々の授業」(1時間の授業を大切にしている教師)
- 子どもを変えるのは「使命感と情熱をもち一歩前進する教師」
- 子どもを変えるのは「子どもを観察し(見続ける、理解し続ける)、認める教師」
- 子どもを変えるのは「具体的な指導と繰り返しの指導」
- 子どもを変えるのは「学校経営、学年経営、学級経営のつながり」(学年力)

学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業改善の手立て



学力向上重点項目

- 授業力の向上（できた、わかったの笑顔いっぱい・主体的に学ぶ意欲を高める授業）
- ★日々の授業（1時間の授業）を大切にする。
（居心地のいい学級・授業づくりのための「授業の心得」「教師の心得」を常に意識・実行する。）
- ★学びのユニバーサルデザインによる授業改善（視覚化、焦点化、個への対応）を進める。
- ★生徒指導（一日の生活づくり、10この約束）、学習の約束（学習に集中するために）の指導
- ★居心地のよい環境づくり（挨拶・言葉の指導、教室環境づくり、よりよい集団づくり）
- ★家庭学習（「力がつく笑顔いっぱいの家庭学習」の浸透・実行、家庭における読書活動の充実）
- ★毎週の学年会（学年研修）の実施、学年主任による評価（共通理解より共通実践を大切に。）

45分の授業における学びのユニバーサルデザイン

○授業の前に

- ☆児童の実態をつかみ、教材を分析する。
- ☆教師の願い（ねらい）を明確にし、単元を構想する。

○授業の中で（「教師の心得より」）

- ☆発問や指示は表情豊かに「短・単・端」（短く・単純・端的）に。
- ☆ユーモア（笑顔）と心地よい緊張（静寂）の場面をつくろう！
- ☆認めよう！大いにほめよう！そして広めよう！

○焦点化

例 写真や挿絵をもとに気付いたことを出し合い疑問を共有する。

例 付箋のたくさん張られた場所から考えを出し、学習問題につなげる。

例 前時の疑問から本時の学習問題を提示する。

例 何を考えるのか課題を明確にする。

例 学習問題から問いを絞る。

○視覚化

例 絵や写真、大事な言葉をきちんと考えた板書計画。

例 授業案に板書計画を立てて臨む。（授業のゴール意識）

例 会話文を色分けして提示したり順番に並べたりして気持ちの変化を読み取りやすくする。

例 具体的な操作、動作化で思考を深める。

○個への対応

例 具体物、半具体物を使って指導する。

例 ペアで説明し合う。グループで意見交換する。

例 自分の考えがもてるように、文字の大きさや字数、挿絵、吹き出しを工夫したワークシートを使用する。

例 一人一人の興味に基づいた課題設定や自分自身を振り返るための時間を確保する。

時間	学習の流れ	
5	学習課題の提示	★開始と終了の時刻を守る ★学習問題を赤枠で囲む
	個人追究	★視覚化の視点で学んでいることがわかる板書に。 ★ノート指導で個に対応
20	考えの交流	★作業や操作、具体物を取り入れる ★ペア学習で説明し合う ★グループで意見交換することで、疑問を解決したり理解を深めたりする
	まとめ	★まとめを青枠で囲む
35		
45		

掛川市立第二小学校

平成27年度 我が校のものがたり

1 校内研修の充実

- ・ 研究主題：「言語活動を核とした授業づくり」
- ・ 研究仮説：国語科の授業において、「読むこと」の領域の「言語活動」を充実させ、授業展開の工夫をし、教師の発問や指示を精選していけば、どの子ども「確かな学力」を身につけることができるであろう。
- ・ ねらいと一体となった言語活動を充実させるために、指導計画「掛二小モデル」を立て、授業に活かす。
- ・ どの子どもにも確かな学力をつけるために、45分間の授業展開を工夫する。
- ・ 一人1回指導案を書き、授業公開を行うことで授業力をつける。
- ・ 単元途中に、「付いた力」を検証する。

2 掛二小授業実践項目の徹底

- ① 特別支援を基盤にした授業をしよう。【9・10月】
 - ② 教具を活用しよう。【6・7月】
 - ③ 評価の計画をもとう。【1・2・3月】
 - ④ 板書計画をもとう。【11・12月】
 - ⑤ チャイムで授業を始めよう。【4・5月】
 - ⑥ 学習課題（学習問題）は赤、まとめは青で囲もう。【4・5月】
 - ⑦ 子ども同士が関わり合う場を設定しよう。【9・10月】
 - ⑧ 聴く・話すのルールを徹底しよう。【6・7月】
 - ⑨ 発表している子どもの目を見て聞こう。【11・12月】
 - ⑩ 授業の中で、子どもの良さを見取り、子どもに返していこう。【1・2・3月】
- ※【 】は重点月

3 少人数指導

- ・ 2年生、3年生、4年生、5年生、6年生を対象に算数授業において2C3T、3C4Tの少人数指導を行う。
- ・ 習熟度別クラス編成を基本として、単元により、編成を見直す。
- ・ 担任と級外職員で教材研究を行うことで、児童の興味関心をひく教材や課題を工夫したり、体験的な活動等、五感に訴える学習を展開したりして、一人一人の学ぶ意欲を高め、実感を伴った理解を深める。
- ・ 児童一人一人の学ぶ過程を重視し、やり遂げた達成感や充実感を味わわせ、より高い目標に向けて努力しようとする態度を育てる。

4 名文・詩文の暗唱

- ・ 多くの名文、詩文に触れ、声に出して読む楽しさを感じ、語彙や表現方法を身に付ける。
- ・ 掛二小暗唱カードに沿って練習させ、教師がチェックし、賞揚する。
- ・ ステージごとに2作品を決め、暗唱させる。

ステージ	暗唱させたい名文・詩文
笑顔	「春のうた」(草野心平)、「十二か月」
挑戦	「あめ」(山田今次)、「吾輩は猫である」夏目漱石
仲間	「夕日が背中をおしてくる」(坂田寛夫)、「仁和寺の法師」(兼好法師)
成長	「いろはうた」「百人一首」
感謝	「ゆきがふる」(まど・みちお)、「奥の細道」(松尾芭蕉)

5 家庭学習の工夫

学年	時間	主な学習内容	保護者の支援
低学年	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・本読み ・ひらがな・カタカナ・漢字の書き取り ・計算練習 ・日記、作文など ・読書 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ児童のそばに寄り添い、相談にのったり、できたことを認めたりする。 ・間違いはその場で正しく直させる。
中学年	30分 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・本読み。読書 ・漢字・ローマ字の書き取り ・計算練習 ・日記、作文など 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の見届けをする。 ・間違いは正しく直すようにアドバイスする。
高学年	50分 60分	<ul style="list-style-type: none"> ・本読み、読書 ・漢字の書き取り ・計算練習 ・意味調べ、調べ学習など ・日記、作文など 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の見届けをする。

6 読書指導

- ・ 読書目標冊数を設定し、読書量を増やす。
1・2年…150冊、3・4年…100冊、5・6年…50冊
- ・ 学年のおすすめ本リストに紹介されている本を10冊以上読み、読書の幅を広げる。
- ・ 毎朝8:00～8:10は読書タイムとして、静かに本と向き合う。(火曜日は除く)
- ・ 保護者と共に、家庭での読書「家読」をすすめる。

7 朝テスト

- ・ 毎週火曜日8:00～8:10の朝活動の時間に、国語・算数のテストを実施する。
- ・ 学級担任が採点し、可否を判定する。(判定ラインは学年で相談する。)
- ・ 不合格者は水曜日のロング昼休みに再テスト等で補習を行い、学習内容の定着を図り、学力を向上させる。

8 掛二つ子チャレンジテスト

- ・ 年3回(7月,12月,2月)国語テスト、算数テストを行い、基礎・基本を定着させる。
- ・ 国語テストは、漢字、文法などの基礎・基本の問題。
- ・ 算数テストは、計算、図形等の基礎・基本の問題。
- ・ 50題程度を基本として、学年ごとに担任が問題を作成する。
- ・ 合格ラインは9割正答を基本とし、補習学習の時間等を使い、合格するまで指導する。

9 補習学習

- ・ 毎週水曜日、給食後のロング昼休みの時間を補習学習の時間とする。
- ・ 朝テストやチャレンジテストの再テスト、家庭学習の補習など、補修が必要と認める児童に対して行い、基礎学力向上に努める。

掛川市立中央小学校

平成27年度 我が校のものがたり

学校教育目標

夢だいて はげましあう子

重点目標

互いに温かく、きたえ合う子

・国語力の向上 ・自分の思いを互いに伝え合うことができるようになる

研修テーマ

思いを受け止め、わかりやすく伝える子

中央小の校内研修の実践

- 校内研修
 - ・中心授業
- 学年研修
 - ・公開授業
 - ・単元計画の作成
- 中央小スタイル

授業力の向上

研修

- 学習指導要領
- 授業づくり規準
- よりよい自分をつくっていくためにⅣ
- 授業改善の視点
- 学力向上ものがたり

国・県・市の方針の理解

校内研修の土台

教材研究
読書指導 図書館教育

日々の授業

研修の重点を意識した授業づくり

- ・教師の意図が明確か
(子どもの実態・形態・形勢・目的等)
- ①「意図的な「思いや考えを伝え合う」場の設定」(各教科・領域)
- ②「単元を貫く言語活動」を意識した単元構想の工夫(国語科)
- ・付けたい力(指導事項)を明確にした単元計画
- ・各単位の時間の言語活動
- ・教師の働きかけ(発問・板書・支援等)

基礎・基本の定着

支持的風土の学級づくり

- ・認め合い、補い合い、正し合い
- ・学級会の充実

3BIGの育成



- 「3BIG」表
- 「BIGVOICEで説明名人!」表
- 伝え合う力を向上させる場(行事)の設定

まなびつくり

- 学習の約束
- ドリルタイムの充実
- 家庭学習の手引き
- Weekend 漢字 try
- ステップアップタイム

「話し方・聞き方・書き方・関わり方」の向上

学習環境づくり

子ども理解

- ・実態の把握(アンケート・QU)
- ・人間関係づくり

「中央小の授業づくり」共通実践項目

Give ample praise (ほめちぎれ!!)

◆研修テーマに沿った授業づくり

昨年度の教員へのアンケートと学力調査の結果を基に、今年度は、『思いを受け止め、わかりやすく伝える子』を研修テーマと定めた。「わかりやすく伝える力」と「相手の思いを受け止める力」に視点を絞り、県教委の「授業改善の視点」や「かけがわ学力向上ものがたり」を意識しながら日々の授業づくりを行っている。

(1) めざす児童の姿を共通理解し、具体的な手立てをうつ

「わかりやすく伝える」とは	「思いを受け止める」とは
○自分の考えを工夫して書く、話す ・根拠を示して書く ・構成を考える ○相手を意識して、内容や伝え方を工夫する ・内容や量 ・話し方 ・資料の使い方	○的確に読み取る ・問題内容を捉える ・資料の内容を読み取る 等 ○的確に聞き取る ・何を伝えたいのか想像しながら聞く ・聞き取った内容を自分の言葉で言える。それを基に反応を返す

(2) 研修の重点を意識した授業づくりをする

研修の重点① 意図的に「思いや考えを伝え合う」場を設定する	・教師の意図が明確か（子どもの実態・形態・目的等） ・単元構想の中での位置づけを意識する。（単元を貫く言語活動との関連性をもつ）
研修の重点② 付けたい力を明確にして「単元を貫く言語活動」を意識した単元構想を工夫する	○付けたい力（指導事項）を明確にした単元計画 学習指導要領解説国語編に書かれているどの力（指導事項）を付けるためのものか、扱う教材ならではの特性は何か等を意識する。 ○教師の働きかけ（発問・板書・支援等）

◆校内研修の充実

・中央小スタイル

県教委の「授業改善の視点」を基に作成した「1時間の授業の基本形」である「中央小スタイル」を共通理解し実践することで、全職員が足並みをそろえ、質の高い授業づくりを心掛けている。

・学力調査採点研修

実際に学力調査の問題を採点し、各学年の授業や日々の指導に生かしている。

・外部講師による国語科研修

本年度より研修の窓口教科が国語科となったため、研修の重点①②についての研修の必要性を感じた。そこで、外部の講師を招聘し、国語科の研修会を行う予定である。

・学年研修の充実

計画的、共通的な学年研修を行い、教材研究の日常化、共有化を進める。お互いに教室を見合ったり、教材やノート、板書写真等を持ち寄ったりするなど、掲示や教具のアイデア、予定黒板の書き方等を学び合う。校内研修にも3回の学年研修を位置づけ、学年部1本の単元構想づくりを行う。

◇「3BIG」と「あったかアクション」の姿の育成

中央小では、学校生活の中で願う子どもの現れとして、「3BIG」と「あったかアクション」という言葉で子どもたちと共に共通理解している。また、よりよい発表のしかたを表にまとめ、教室前面に掲示し、活用している。

思いを受け止める 分かりやすく伝える 意欲的に活動する			思いやりのある行動
"BIG EYES" 	"BIG VOICE" 	"BIG HEART" 	"あったかアクション" 
★ わかるまで	★ わかりやすく	★ やる気いっぱい!	
5 反応を返しながら	5 理由をつけて	H ぼんぼん発表!	
4 最後まで	4 ほっきり最後まで	E おえおえ、教えて!	
3 相手の方を見て	3 みんなに聞こえる声で	A どんどんやろう!	
2 正しい姿勢で	2 みんなの方を向いて	R じっくりやろう!	
1 手に何も持たない	1 「はい」と返事をして	T さあ、さよう!	

◇「BIG VOICEで説明名人」表の活用

BIG VOICE表のMAXレベル「わかりやすく」を詳しく示したものである。児童にとっては「話す」「書く」の表現力向上のための「型」である。

この表に示された表現を意識して使用することで、児童が表現の幅を広げ、いずれ自分の言葉として使いこなすことができるように期待して作成されたものである。

高学年用	
BIG VOICEで説明名人!	
自分の伝えたいことを、もっともっと分かりやすく伝えるために、こんな言い方があります。	
名前	
1	答えや結論を先に言う 私の答えは～です。理由は～ 私は～がいいです。
2	順序よく言う まず(最初は)、…です。 次は、…です。 最後に…です。
3	友達の見方につけて言う ～さんと同じで…です。 ～さんと似ていて…です。 ～さんと少し違って…です。 ～さんにつけて…です。 ～さんに賛成/反対で…です。
4	例えて言う 例えば～だと ～の場合は… 今回は… もし、～だったら…です。
5	友達の見方をまとめて言う つまり、…です。 要するに、…です。 まとめて言うと…です。
6	前の学習と比べて言う 〇の場面では～だったけど… ～のことをつかって考えると… ～したときみたいに…です。
7	聞いている人たちの様子を確認しながら言う ここまでどうですか? 〇ページの口を見てください。 ～でしょ?
8	問いかけながら言う (〇さん)、～はわかりますか? (〇さん)、口はどうなりますか?
9	黒板に書きながら言う

◇基礎学力タイムの充実

夏休み前、冬休み前に、朝活動の時間を活用して、基礎学力の定着を図るドリルタイムに設定している。

◇基礎学力定着プラン

年度始めに、各学年で漢字を読む力・書く力、計算する力を高めていくための指導方法(授業の進め方・ドリルの使い方・宿題の内容等)を計画し実践している。

学年	漢字を読む力・書く力を高めていくための指導方法の工夫
例) 1年	例) ・毎日の家庭学習に書き取りを取り入れる。 ・毎週書き取りの手本を配り、正しく丁寧に書く習慣を付ける。 ・書き取りは、その日のページに漢字、ふりがなは次のページに書くようにさせる。 ・手本と同じ漢字テストを毎週行い、基準に到達するまで繰り返す。
学年	計算する力を高めていくための指導方法の工夫
例) 1年	例) ・毎日、家庭学習に計算カードを取り入れる。 ・たしざん名人、ひきざん名人の認定制度を取り入れる。 ・家の人に時間を計っていただく。

◇家庭学習の手引き

家庭学習(宿題+自主勉強)のモデルとして各家庭に配付し、周知を図っている。

◇Weekend 漢字 try

各学年の定着度調査の反省から、昨年度学習した漢字の定着に課題が見られた。そこで本年度より、週末の家庭学習に昨年度学習した漢字の内容を取り入れ、定着を図るようにした。

◇ステップアップタイム

月に1回、補習の時間を設けている。学習の定着が図れていない児童や補習を希望する児童を対象に行っている。

◇「中央小の授業づくり」共通実践項目

教師が日々の授業づくりで意識する10の内容を共通理解し実践することで授業の質の向上を目指している。

☆「中央小の授業づくり」共通実践項目 ☆

10 Ways For Better Lessons

西中学校区共通実践項目

1 学習の流れがわかりやすい術書にしよう。[術書計画を立てて授業をしよう]

2 友達や教師の話をBIG EYESで聴く指導をしよう。[子どもの発言を大切にしよう]

3 「Give ample praise (褒めちぎれ)」をしよう。[授業の中でどんな褒めよう (BIG) と「あったかアクション」の言葉を使って褒めて価値づけよう]

4 予定黒板に本時の課題や活動を書こう。

5 開始と終了の時刻を守ろう。

6 姿勢と声をそろえて始めと終わりの挨拶をしよう。

7 学習問題(主活動)を赤で、まとめやわかったことを青で囲もう。

8 さまざまな活動を取り入れよう。
(話す、聞く、見る、読む、書く、写す、発唱する、調べる、操作する、思考するなど)

9 自分の考えをBIG VOICEで表現する指導をしよう。(自分の言葉で話す・書く)
(わかりやすくはっきり話す、関連づけて話す、比べて話す、ジェスチャーをつけて話す、わかりやすくきれいに書く、詳しく書く、簡単に書く、友達を考えを取り入れて書く、など)

10 子どもたちが関わる場を意図的に設定しよう。
(関わる目的は何か・子どもの考えのどんな姿容をならうのか、はっきりさせよう)

掛川市立曾我小学校

平成27年度 我が校のものがたり



100周年記念碑

教育目標 みんなが笑顔で かがやく学校

学習環境づくり

- シンプルな学習用具
- 整頓された机上

4月。先生や友達とじっくり話し合っ
て決めるよ！

めざす授業

- ・年度始めに子どもたちと話し合い、めざす授業像を創る。
- ・ステージ毎、振り返り、次のステージに生かす。

家庭学習支援

- 「家庭学習のすすめ」を配布
 - ・めざす家庭学習時間を「学年×10+10分」と設定。
 - ・主な学習内容、保護者の支援について低・中・高学年に分けて提示。

6年生になったら70分！
がんばるぞ。

基礎基本の定着

- 朝国・朝算
 - ・それぞれ週1日、朝の15分間で国語・算数の基礎基本を身につけるための学習時間とする。
- 話す聞くスキル
 - ・朝の会で学級ごとに音読をす

詩やことわざ、論語などにもチャレンジするよ。

読書の充実

- 朝活動8:00~8:15
 - ①朝読書(月~水)
 - ②ボランティアグループ「ダンボ」による読み聞かせ
 - ③教師による読み聞かせ
 - ④読書バイキング
- 読書推進活動
 - ①読書カードに実績を積み重ねていく
 - ②数値目標 年間100冊
 - ③各学年必読図書 10冊
すべて読んだ児童は「読書スペシャリスト」に認定。
 - ④児童・職員のお薦めの本の紹介
- 家庭読書
 - ①学習時間の中に読書を含める。
 - ②秋のノーマディア週間で親子読書を勧める。
 - ③学校図書便りで読書活動の様子、お薦めの本を紹介する。

6年間で600冊読むよ。すっかり本好き。

合格するまで何度もチャレンジ！

家で読書したら、本読みカードの読書欄に記入するよ！

学習3(スリー)

- ① 学習用具をそろえる
 - ② 聞き手を見て話す
 - ③ 話し手を見て聞く
- ・学習3に進んで取り組む子(90%)をめざす。



たしかめテスト

- 1年に3回、7月・11月・1月(定着度調査)に、それまでの学習のまとめテストを行う。

補充学習

- サマースクール・ウインタースクール
たしかめテストの結果を踏まえて、長期休業・放課後を利用した学習支援を行う。

重点目標

やる気アップ
やる気アップ
やる気アップ

【校内研修の充実】

○研修テーマ

「子ども一人一人が「わかった・できた」を実感できる授業をめざして」

○めざす子どもの姿

子どもが、授業の終末段階で「わかった」「できた」と納得したり、理解したりすることができる。

○研究仮説（国語）

実態に即した単元を貫く課題解決的な言語活動を設定すれば、子どもたちは目的意識をもって主体的に学び、「わかった・できた」を実感できるだろう。

○研究の柱

（１）年間指導計画を作成する。

学習指導要領を元に

- ①単元ごとに目標・指導事項・内容を洗い出す。
- ②つきたい力を明確にする。

（２）児童理解をすすめる。

- ①何ができるのか、できないのか、実態を把握する。
(レディネステストなど)
- ②児童が国語を「好きになる」「楽しむ」ためにはどうしたらよいか考える。

（３）単元を貫く課題解決的な言語活動を設定する。

- ・国語科を窓口教科とし、研修を進める。
- ・1～6年担任は年1回全体公開をする。
事前・事後研修会を設ける。
- ・特別支援学級担任、教頭、教務主任は自由公開。(指導案は作成する)
- ・学びづくり部が研修推進委員を兼ね、事前・事後研修を進め、必要に応じて部会を設ける。
- ・研修便りは、輪番で作成する。
- ・外部講師を招聘する。



事後研修での検証



重点目標

やる気いっぱい やさしさいっぱい

一人一人が「わかった・できた」を実感できる授業

掛川市立桜木小学校

平成27年度 我が校のものがたり

1 今年度の全国学習・学力状況調査の結果

	正答率(50%以下) 項目数			無解答率(10%以上) 項目数		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27
国語 A	6	2	2	11	0	0
国語 B	6	5	4	6	1	1
算数 A	0	0	0	1	0	0
算数 B	8	4	7	2	1	4
理科			3			1

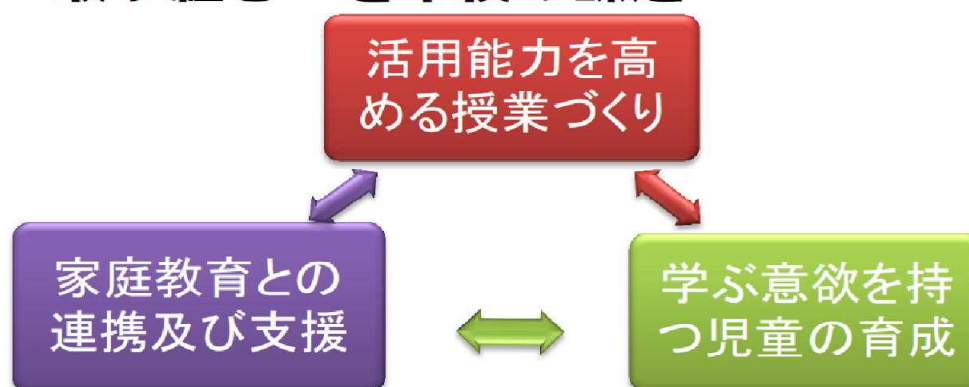
○正答率50%以下の項目は、ほぼ昨年度と同じ割合で減少し、無解答率も減少傾向にある。

○日常の事象と結びつく長い問題提示から、解答に必要な部分を捉え、問題を解く力が付いてきた。

問題を把握し、解答できる児童が増えた。

●国語の論点にそって「書く力」、算数の「関連づける力」に課題が見られる。

2 取り組むべき本校の課題



活用能力のある子 学ぶ意欲のある子

授業作り

国語の授業改善

- ・結論に向かって筋の通った構成力のある文章を書く力を高める。
- ・言葉や接続語、文の形を提示し、整った文を書く機会を作る。

算数の授業改善

- ・図形の性質の理解を深める。
- ・日常の事象と結びつけた学習場面を設定する。
- ・発展的に考えが進む単元構成の工夫をする。

理科の授業改善

- ・観察や実験から得られた結果を基に考察し、自分の考えを記述する機会を多くする。

意欲向上

子どもへの支援

- ・ノート指導により、よりよい表現の仕方を助言する。
- ・国語辞典の活用を継続する。
- ・一人一人の学習意欲を上げる効果的な少人数授業を行う。

スキル学習

- ・教師作成テストを実施し、学習の基礎的な内容の定着を図る。
- ・毎朝の読書を実施、集中力や語彙力を高め、豊かな表現を味わう機会とする。

家庭との連携やはたらきかけ【道徳教育の推進】

- ・「桜が丘学園家庭学習の手引き」の活用を促し、家庭学習の習慣化を図る。
- ・「お茶の間デー」を推進し、家族とのふれあいの時間を大切にするよう保護者に働きかけ、温かな心情とやり抜く強い心を育成する。

掛川市立和田岡小学校

平成27年度 我が校のものがたり

わ 『私たちの道徳』を活用した「道徳教育」を基盤に 第1節

本校は、平成26・27年度と、「文部科学省道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業 静岡県教育推進事業」として、桜が丘学園（中学校区）での「道徳教育」研究の指定を受けています。そして、「かけがわ道徳」を核とした人づくり「道徳教育」と、「学力向上」を2本柱として取り組んでいます。

そのために…

ニハカサヤク

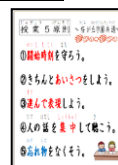
だ 誰もが学びやすい！「学びのUD『わだおか支援』と「授業5原則」 第2節

まず、校内の「学びづくり」の目標として、以下を設定しました。

- 1 授業5原則と学びのUDの実践を通して、望ましい学習習慣の定着を目指す。
 【数値目標】最重点指導項目「忘れ物をなくそう」80%（児童の学校アンケート）
 「好きな教科がある」95%（児童の学校アンケート）

この具体的な取組は、以下の通りです。

授業5原則（桜が丘学園共通）	学びのUD「わだおか支援」（教師の意識）
①開始時刻を守ろう	わ：わかりやすい（指示・活動）
②きちんとあいさつをしよう	だ：だまって動ける（指導・環境整備）
③進んで表現しよう	お：おもいやりがある（温かい人間関係）
④人の話を集中して聴こう	か：かんがえたくなる（発問・仕掛け）
⑤忘れ物をなくそう	



「授業5原則」は、昨年度の「学びの構え『わだおか』」を、中学校生活を見据えて学園として統一しました。そして、「第3章 学びのものがたり」にある『新たな学びのプロセス』への転換や「言語活動の充実」について、「研修&学びづくり便り」を通して、全教職員の意識を高めています。

また…

お オリジナルの取組 ～「掛川の法則」に関連し～ 第3節

「第2章 2 学力の高い子 掛川の法則」と関連し、以下の取組を行っています。

内容	本校の取組
○朝食を毎日食べている。 ○毎日、同じ時刻に起きたり寝たりしている。	毎週火曜日「おはよう検査」（朝食・起床時刻・歯磨き）による意識化
○家で学校の宿題をしている。 ○家の人と学校での出来事について話をする。	音読カードの工夫（宿題ふり返り欄で見届け。家庭・学校のコメント交流欄で会話のきっかけ作り。）
○新聞を読んでいる。	高学年学級へ『こども新聞』配付 新聞を活用したスピーチの実施
○1日あたりのテレビゲームの時間が少ない。	親子ふれあいデー（ノーマディアデー）の設定
○読書が好きである。	読書目標の設定→「読書名人賞」「多読賞」
「読書名人賞」は、国語教科書「この本、読もう」から10冊を選ぶ。これまでは、学校指定必読図書20冊完読を目指していたが、「選書する」という主体的な取組が、読書好きにつながると考えた。	
○携帯電話やスマートフォンを持っていない又は使用時間が少ない。	高学年での「ケータイ教室」の実施

これらを踏まえて…

か 「かけがわ型スキル」の定着を目指して 第4節

校内の「学びづくり」の目標として、「学びのUD」と共に、以下の2点にも力を入れていきます。

- 2 朝活動や和田岡タイム、ふり返りテスト等を活用し、基礎学力の向上を目指す。
【数値目標】 定着度調査 各学年平均が、県平均以上
- 3 「話し方・聴き方名人カード」や国語辞典を活用し、友達の話をしつくり聞いたり、自分の考えをしっかりと伝えたりすることができる児童の育成を目指す。
【数値目標】 しっかり聴く85%・はっきり話す75%（児童の学校アンケート）

この目標達成に向け、今求められている「学力」について全教職員が共通認識をもち、授業改善の視点「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を意識した授業を進め、日々の充実につなげています。以下が、「第5章 我が校のものがたり（別冊）」を踏まえた、今後も継続する効果的な取組です。

(1) 授業改善・研修の充実（調査問題の分析をもとに）

① 「知識」としての定着を図った上で、「活用」する授業展開

- ・国語 **キーワードや型**を押さえる。**それを使って考え**を書く。

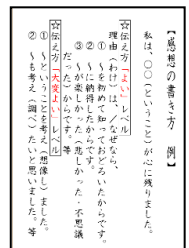
「私は、～が分かりました。理由は～。自分と比べると～」

- ・算数 **考え方の型**を教える。（キーワード穴埋めなど）

「まず、かける数を10倍します。だから、積を（ ）します。」

② 日常の授業での条件指定

- ・例：「**文**意識の定着」に向けた指示 「1文読みをしよう。」「2文見つけよう。」



(2) 校内テスト（日常のテスト・ふり返りテスト）

- ・求められる学力を考え、**教材選定委員会で単元ごとの日常のテストの見直し**を図る。
- ・個の努力を価値づける。**学年便り**で結果・考察等を具体的に伝え、同一歩調の取組を推進する。

(3) 放課後学習支援「和田岡タイム」

- ・**月・金曜の放課後**に設定し、補習学習を行う。教頭を窓口とし、**外部人材を活用**する。

(4) 家庭学習支援（取組の見直しと継続的な取組）

- ・**家庭学習の手引き**を作成・配付する。「**自主学习（復習）ノートづくり**」を進める。
- ・**条件指定**した作文。（「テーマ設定」「160字以上200字以内」「2段落構成」「3文で…」）

(5) その他（「言語活動の充実」に向けて）

① 国語辞典の活用（語彙を増やす指導）、詩集等の活用（音読指導）

- ・**3年以上は、机の横にバッグをかけて国語辞典を常備**する。学校の物の貸出も可。
- ・『詩集』『話す・聴くスキル』等を学年費で購入し、国語や朝活動で活用する。
- ・ことわざ・慣用句・四字熟語等を教室掲示し、日常的に触れる環境づくりを行う。

② 「話し方・聴き方名人カード」の活用

- ・全校統一の「**話し方・聴き方名人カード**」を活用し、足跡を残す。話型を教え込むのではなく例示し、年間を通し**各学級で児童の言葉**を価値付け広める。



こうして…

小 小さな一歩が…「積小為大」へと！ あとがき

「心の育成・道徳教育」と「学力向上」を2本柱として、これらの取組を続けていきます。「積小為大」へと、継続あるのみ。我が校のものがたりは、続いていきます。



掛川市立原谷小学校 平成27年度 我が校のものがたり

5つの羅針盤



本校の子どもたちは、素直で明るく一生懸命取り組む子が多い。表現力も豊かである。この豊かな表現力を生かし、学習の構え、学力の基礎基本を身につけ、「こころざしをもって共に高め合う子」を目指していく。

第1の羅針盤



◎学びの構えの定着

- 「話す聴く」の定着を目指す
 - ・伝え合いレベル表の活用（本校独自のもの）
- 学習スタイルの定着を目指す
 - ・学習課題、学習のまとめを明確化
 - ・学習のまとめを書く時間の確保

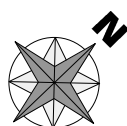
第2の羅針盤



◎研修の充実

- 「わかった」「わかってもらえた」を実感できる国語の授業を目指す
 - ・つけたい力を明確にした単元・学習活動の展開
 - ・学び合いを生む関わらせ方

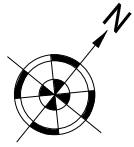
第3の羅針盤



◎基礎学力の定着

- 基礎学力の定着を目指す
 - ・朝のスタディタイム（国語・算数のプリント学習）
 - ・ステージテスト（ステージ1回の国語算数のテスト）
 - ・チャレンジ学習（長期休業前の個別学習）

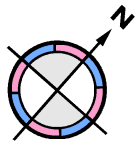
第4の羅針盤



◎読書活動の推進

- 読書好きな子を目指す
 - ・朝読書（火・水・木曜日）
 - ・読み聞かせ（年間15回）
 - ・読破賞（必読書を読破した児童を賞賛する）
 - ・あい読の推進（本校独自の読書日記）

第5の羅針盤



◎家庭・学校・地域の連携

- 原谷を大好きな子を目指す
 - ・地域体験学習
（3年お茶摘み・4年原野谷川調査
5年お米作り6年福祉施設訪問）
 - ・学習ボランティア支援（ミシンボランティア等）
 - ・学習習慣の定着 ※「家庭学習の手引き」を参考に

〈目指す子どもの姿〉

- ・自分の目標（こころざし）をもってがんばるようになった。
- ・授業で自分の考えを発表したり、友だちの考えを聴けるようになった。
- ・漢字が書けるようになり、計算問題が解けるようになった。
- ・読書量が増え、本を読むことが好きになった。
- ・原谷小が大好きなり、「学校のためにがんばろう。」と思うようになった。



〈目指す教師の姿〉

知識・技能の習得と思考力・判断力などの育成のバランスを重視し、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養っていききたい。日々の授業の充実のために積極的に授業研究を行い、「チーム原谷」の学校体制で切磋琢磨していききたい。



掛川市立原田小学校

平成27年度 我が校のものがたり

1 本校がめざす「学力向上ものがたり」

学校教育目標

自ら考え みがき合う子

重点目標

は・な・しができる子になろう

研究主題

なるほど・わかった が実感できる子

研究主題

について

平成 25、26 年度、2 年間の研修を通して、子どもが自分の考えの根拠をもつことができるようになりつつあり、発表の時に自分の考えの理由を言える子が増えてきた。特に「伝える」「伝えよう」とする態度が育つなど、「話す」（発信力）における子どもの成長が見られたことは、研修の成果と言える。

一方、授業を通してより高いものを求めようとする気持ちや自分の思い・考えへのこだわりがやや少なく、学習に対して受け身になりがち傾向が見られた。

そこで、本年度は、「話す（伝える）子」から「は・な・しができる子」へと発展させていきたいと考える。「は・な・しができる子」とは、「授業に主体的に取り組む子ども」をより具体的な姿として捉えようとしたものである。

は…反応する

一人一人が目的意識をもち、主体的に授業に参加することで自然な反応が生まれるだろう。

な…納得する・投げかける

「なるほど・わかった」が実感できる場を授業の中に設定すれば、「納得する」ことができるはずである。

し…質問する

学習活動の工夫・充実を図っていくことで、分からないこと、もっと知りたいことを「質問」し、追究することができるはずである。

【原田小学校がめざす姿】

「たからもの」が育つ学校

「子どものたから＝自尊感情と学ぶ力」 「教師のたから＝指導力」

そのために・・・

原田小学校が従来取り組んできた「学び合う授業・わかる授業」の上に「できる授業・身に付く授業」を構築するために、教科指導を縦糸、授業改善を横糸に、「なるほど・わかった が実感できる」原田の学びを創り上げていく。

横糸＝授業改善

縦糸＝教科指導

2 本校の学力向上の具体的な取組

(1) 授業改善【横糸】

- ・単位時間及び単元を通して付けたい力を明確にした指導計画をもつ。【押さえる】
- ・児童が問題解決に向けて主体的に活動する場面を設定する。【仕掛ける】
- ・本時で付けたい力が付いたか、毎時間、子どもによる振り返りを行う。
(学習のまとめや活用の時間を大切にす)【確かめる】

ア 授業の目標を具体的にすることで、付けたい力を明確にする。

- ・学習指導要領と教材とを照らし合わせ、指導の目標を具体的にし、目標、学習課題、評価の一体化を図る。

イ 学びの道筋を児童と共有した授業づくりをする。

(ア) 言語活動を設定し、児童に目的意識をもたせた単元の構想をする。

(イ) 本時で付けたい力が付いたか、子どもによる振り返りを行う。⇒**学習のまとめや活用の時間の確保**

(ウ) 学びの振り返りを生かした評価をする。⇒**学習課題は赤囲み、まとめは青囲み**

(エ) 学びの経過と内容が表された板書に心がける。

ウ 読み取る力を育成するために、漢字や語いなどの反復練習を日課に位置づけ、基礎学力の向上を図る。

- ・週1回の朝のドリルタイム(漢字練習タイム)を設定する。
- ・毎月曜日、30分間の学習習熟時間(とことんタイム)を設定する。

エ 読書の量から質への転換を図る。

(ア) 週1回の読み聞かせと週3回の読書時間を設定する。必読、推薦図書を選定し、良書を薦める。

(イ) 家庭学習に10分以上の読書時間を設定し、家庭読書の充実を図る。

(2) 教科指導【縦糸】

- ・各教科において学習指導要領に示された目標と内容を明確にする。【押さえる】
- ・付けたい力に沿って、問題解決や体験的な活動の工夫や言語活動の充実などを意識した子どもを中心とする授業作りに努める。【仕掛ける】
- ・学習内容の理解を確かめる場を設定し、学力の定着を図る。【確かめる】
- ・学習の場で教師が認め、価値付けを行い、自尊感情を高める。【高める】
- ・学びの実感をもたせ、さらに学ぶ意欲につなげる。【つなげる】

活用する

付けたい力が付いているか他教科や他の領域、学校行事の中で確認する。

- ・たからものスピーチ
(全校児童が年1回ずつ行う。)

・大高山発表会 等

ア 校内研修体制を強化する。

(ア) 教科研修、ICT研修、特別支援研修を実施し、「学習指導要領で求められている学力」を明確にするとともに、多様な指導法の獲得を目指す。

(イ) 一人一授業公開を行い、授業技術の向上を目指す。

イ 評価方法の見直しを図り、学力の定着を確認する。

ウ 授業を見合う会により、研修の日常化を図り、授業技術の向上を図る。

エ 家庭との連携で学習の習慣化と定着を図る。

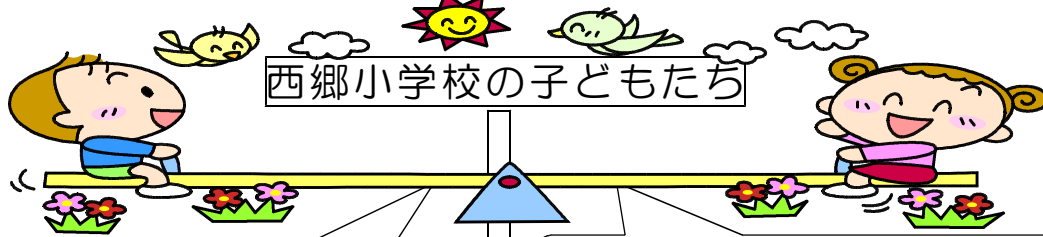
(ア) 家庭学習の仕方の指導と見届けをする。

- ・家庭学習の仕方の指導と家庭学習につながる授業展開を工夫する。
- ・計画的な家庭学習ができるように指導する。

(イ) 家庭と連携した取組を行う。⇒**「ふれあいデー」(毎月21日実施)の活用**

- ・家庭読書の充実や文化施設の利用を促進する。
- ・新聞やテレビのニュースにふれる機会を増やす。
- ・学習時間の確保やノーメディアデーの設定など家庭生活の見直しを図る。

掛川市立 西郷小学校 平成27年度 我が校のものがたり



- 明るく素直、人なつっこい
- 困難を避け、きまりを守る意識が低い。

- 明確な目標の下、がんばることができる。
- 当たり前なことが定着しにくい。

さらに成長を図るために

学校教育目標

「かがやけ! じっくり にこにこ とことん」

重点目標

「当たり前なことを、自分で」

志

校内研修の充実と日常的な授業改善

研修テーマ「大切なことが身につくためのまとめ方」

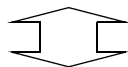
～確かな学力を身に付けるために～

授業改善・指導方法の工夫

子どもに確かな学力をつけるため、職員が一丸となって、研修しています。特に授業後半の時間を多くして、大切なことが身に付くまとめ方を工夫しています。



- ① 単元での付けたい力を明確に押さえる。
子どもの実態と思考の流れにそった単元計画を立てる。



- ② 本時の付けたい力を念頭に学習活動をつくり、キーワードを押さえる。
確かな力を身に付けるまとめ方になるよう、1時間を逆算で考える。

貳

基礎・基本の定着

家庭学習の手引き

様々な学力をつけるためには、家庭での学習、過ごし方が大切です。この「家庭学習の手引き」を活用して、お子さんと一緒に家庭学習の習慣をつくらせましょう。

☆子どもの約束 ... 集中して取り組もう！

- 部屋の机の上を片付け、学習に集中できるようにする。
- 学習時間の目安を参考に、集中して学習する。

1-3年	4年	5年	6年
30分	40分	50分	60分

○ながら学習しない。
物を食べながら× 遊びながら×
家族用テレビ・音楽・携帯電話・パソコン・ゲームの電源を切る。

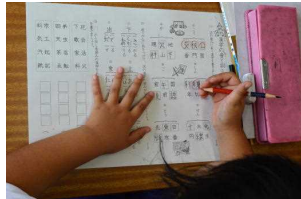
○まず、宿題に取り組む。残った時間は、自主学習をする。
自主学習は、授業の復習を中心に、興味のある分野での学習をします。

○次の日の授業の準備、持ち物の確認をする。

☆お家の人へのお願い ... 見届けと励まし
5678910の学習の様子を確認する。

家庭学習の手引き
家庭での学習も大事な学びの場。保護者と連携して、充実を図っています。

学びの12か条
基本的な学習習慣を身につけるための12項目も一緒に指導。



めざす授業像

全学級で、担任と子どもが「どんな授業をつくるか」を共有します。

スタートはまちがうことから
目を見て聞く 「わからない」を言う
5年1組 めざす授業
真剣に 楽しく
聞くときは聞く 書くときは書く ほっつき話す 反応する



かがやきタイム
毎水曜日の放課後国語・算数の基礎的内容を、20分間で復習・練習します。

チャレンジテスト・定着度テスト

長期休業前など、個々の基本的内容の定着をテストで確認し、不十分なところを補充します。



音読タイム

朝の会で、詩や短文等を朗読します。1ヶ月で暗記してしまいます。



読書指導

読み聞かせや朝読書、学校図書館の積極的な活用をする授業を推進しています。



参

個に応じた指導

①学びのユニバーサルデザイン

- ・視覚に訴える板書
- ・キーワードの明示
- ・子どもと先生との板書ルールの一



②個の実態を把握し、単元計画を子どもの姿で考える。

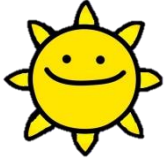
③少人数指導

- ・算数を中心に理解の進度に応じた指導



掛川市立倉真小学校

平成27年度 我が校のものがたり



教育目標

かがやく子

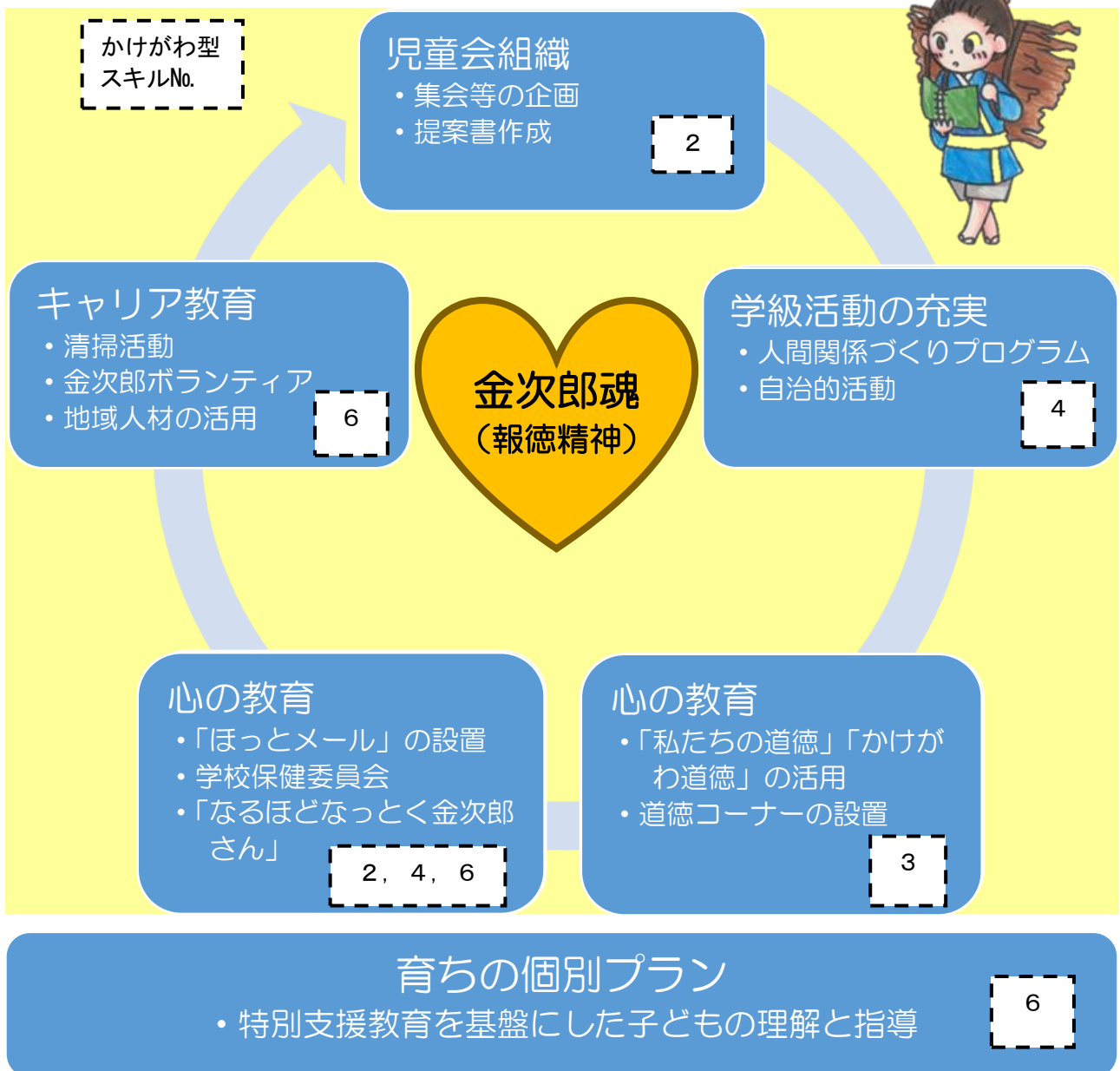
重点目標

ともに築いてきた力！ ともに広げよう！

かけがわ型スキル

- 1 思考力
- 2 問題解決力
- 3 意思決定力
- 4 コミュニケーション力
- 5 情報の選択・活用能力
- 6 地域や社会の中で生きるためのキャリア体験

金次郎プロジェクト



冀北プロジェクト

学習スキル

(聞く、話す、書く)

- ・到達目標の掲示
- ・短冊の掲示、活用 (スモールステップによる習得)

1, 2
3, 4

基礎基本

(ドリル学習)

- ・朝計、朝漢、朝文による基礎学力の積み上げ
- ・冀北テスト (年4回) による定着の確認
- ・長期休業中の補習学習 (寺子屋)
- ・全学年共通のノート指導、ノート展
→文を書くのが楽しい子の育成

音読指導

- ・詩の音読 (週3回) →読書記録を残す
- ・チャレンジ週間の設定 (毎月)

4

読書活動の充実

- ・朝読書 (週3回)
- ・読み聞かせ (教師、ボランティア)
- ・身近な図書コーナーの設置 (2・3階)

1

冀北学習

- ・主体的な課題設定で倉真地区のよさを再発見
- ・「冀北発表会」で地域に発信

1, 2
3, 4
5, 6

研修の充実

- ・説明する力を身につけた子の育成
- ・ICT機器の効果的な活用
- ・少人数学習のよさを生かした授業
- ・算数のTT指導 (全学年)

1, 2
3, 4
5

課題調査の分析

- ・学力調査結果の分析を基にした課題の検討
- ・授業改善 (押さえる、仕掛ける、確かめる)

1, 5

家庭学習支援

- ・家庭学習の手引きを基にした家庭と学校の共通実践
- ・倉真っ子チャレンジカードの活用
(生活習慣・家庭学習の充実)

6

掛川市立土方小学校

平成27年度 我が校のものがたり

土方小 「じっくり学ぶ子」の花を咲かせよう！

土方小「じっくり学ぶ子」の花＝意欲をもって粘り強く学ぶ子



- 確かな学力（学習に係る基礎基本の定着）
- 自ら学ぶ学習意欲
- 課題解決に向けて粘り強く取り組む問題解決力

平成27年度の教育課程編成において、土方小の子どもたちの「じっくり学ぶ子」の姿を「意欲をもって粘り強く学ぶ子」と捉えました。

本校の我が校ものがたりでは、「じっくり学ぶ子」を花に例え、花を咲かせるための成長過程「①土壌づくり・種蒔き ②芽吹き・成長 ③開花」をものがたりとして展開していきます。

①土壌づくりと種蒔きの期

土壌づくり <しっかり根をはり、成長できる土壌をつくる>



一人一人が安心して学校生活を送り、自分の力を思い切り発揮できる環境をつくることが「じっくり学ぶ子」育成の基盤（土壌）となります。そのために、支持的風土の醸成と居場所づくりを大切にされた学級経営に年間を通して心がけていきます。



「みんながしっかり話を聞いてくれるから、発表が好き。」
「自分の意見をみんなが大事にしてくれて、うれしいな。」
「みんなで落ち着いて学習ができるって気持ちがいい。」

種蒔き <「じっくり学ぶ子」の花を咲かせよう>



「じっくり学ぶ子」とは、どんな子なのか。
学級開きや授業開きで、出会いを大切にしつつ、1年後の具体的な姿を示し、「じっくり学ぶ子」のイメージを子どもと教師が共有します。







「学年で学習したことができる・わかるようになりたい。」
「難しい問題でもあきらめないでやりきる力を付けたい。」

②芽吹き・成長の期



芽が出た後、成長に必要なものは、「日光」と「水」です。植物の成長を促す「日光」は「日々の授業改善」、成長のために自ら吸収する「水」は「学習スキル」となります。

教師の授業改善によって、子どもたち一人一人が温かな日光を浴び、様々な機会を通して水（学習スキル）を吸収することで、「じっくり学ぶ子」の花を咲かせる木は成長します。さらに、力強く成長するための適切な肥料（校内研修）と個に応じた支柱（地域や家庭のサポート）によって、その成長はより確かなものになります。

<div style="text-align: center;">  <p>日光<授業改善></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある授業づくり 「押さえる・仕掛ける・確かめる」 ○ユニバーサルデザイン 「焦点化」「視覚化」「個への対応」 「学習（見通し）黒板」の活用 ○授業過程の再構築 「追究」「まとめ」時間の十分な確保 ○アクティブラーニングの推進 	<div style="text-align: center;">  <p>水<学習スキル></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣づくり <ul style="list-style-type: none"> ・土方小学びのルール、約束 ・話す聞く書く名人表の活用 ○学びの基礎基本 <ul style="list-style-type: none"> ・朝ドリル学習（漢字計算） ・土方小日記（書く力） ・ノート展（ノート作り） ○学びの応用・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の推進 ・生活科、総合的な学習の時間 	<div style="text-align: center;">  <p>肥料<校内研修の充実> 自分の考えを高める子の育成</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○思考表現力をつける <ul style="list-style-type: none"> ・考えをつくる段階やまとめる段階で自分の考えを明確に書く。 ※発問の明確化と価値付け ○関わり合いの中で学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わり合いながら、自分の考えを高める。 ※意図的な交流や話し合い ○言語活動の充実 ○学力調査の分析・改善
<p>支柱（地域・家庭のサポート）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせボランティア（毎月2回） ○家庭学習の7か条（城東学園） <ul style="list-style-type: none"> ○放課後学習教室（寺子屋） ○学校図書館や大東図書館の活用 </div> <div style="text-align: right;">  </div>		

③開花の期

のびのび成長した「じっくり学ぶ子」の木は、たっぷりの日光と必要な水、効果的な肥料と個に応じた支柱によって、その花を咲かせます。土方小の子どもたち一人一人が「意欲をもって粘り強く学ぶ子」となるよう全職員と家庭と地域が連携して、力を合わせて取り組みます。

平成28年度へ

来年度は、どんな花を咲かせようか。児童の実態や学力調査の結果分析をもとに全職員で夢を語り合います。

掛川市立佐東小学校

平成27年度 我が校のものがたり

本校では、昨年度の成果と課題を明確にし、子どもたちの確かな学力を身につけさせるために、次のような取組を実践していきます。

学びづくり部では、一年間「聴く」をベースに学習の基盤づくりに取り組みます。研修部では、どの児童も『「わかった」「できた」を実感できる授業づくり』を目指します。

学校教育目標

力の限り 挑戦しよう

平成27年度 重点目標

つくろう 自分のじまん みんなのじまん

やってみよう。
黒板を見たら
ポイントがわかった。

視覚化

〇〇さんの発表を聴いたら、
〇〇ってことがわかった。

焦点化

学びのユニバーサルデザインを基盤として

まへに出会い

四〇八月

つくろう！「学習のルール」じまん

〈学習用具を揃える〉

○削った鉛筆5本・赤青鉛筆・消しゴム・定規・下敷き

〈学習の構え〉

○始めと終わりの挨拶を元気よく行う。
○休み時間に次時の準備をし、チャイム着席。

〈授業の約束〉

○ノート書き方・発表の仕方を覚える。
○**相手を見て、黙って最後まで聴く。**

〈家庭学習〉

○家庭学習のやり方を知り、時間を守る。

さびかっ子学カアップ週間

2年

◎筆入れは、毎日の学習の大切な勝負道具です。
もちものをそろえて、授業に集中して取り組みよう！

★ふでばこ(〇)はずったえんぴつ5本 ◎赤青えんぴつ ◎消しゴム ◎黒鉛筆を
確認しらべて、わすれものがないか、かたにします。 **
わすれたものがあつたら、予定表に書いて、次の日は、必ず持ってきてきましょう。

月/日	10/14 (月)	10/15 (火)	10/16 (水)	10/17 (木)
クラスで、個人 学習人が、〇 だったかを書 いてください。	18	28	26	29
	30	30	29	29
遅刻数 ※10%未満 ※10%以上 ※10%未満	X	☺	☺	☺

	つくろう 聴き方じまん
レベル6	比べながら聴いて話す
レベル5	意見や感想が言えるように
レベル4	聴き終わったら反応
レベル3	うなずきながら
レベル2	相手の言葉をくり返して
レベル1	最後まで 相手を見て

つくろう！「発表」じまん

〈つかむ〉

○学習のめあて(目標)がわかる。

◎視覚化
構造的な板書

〈深める〉

○**反応しながら聴く。**

(うなずく・「似ています」「同じです」等)

○ペア・グループ・少人数・全体の場で自分の考えを発表する。

◎焦点化
切り返し発問

〈まとめる〉

○キーワード等を使って、学んだことをノートに書く。

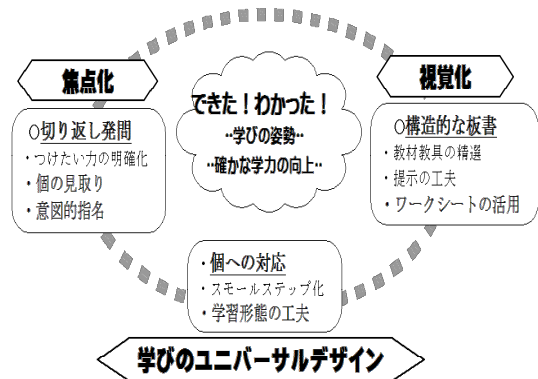
【研修主題】

「わかった」「できた」を実感できる授業
～つきたい力に向かった手立ての工夫を通して～

【研修仮説】

仮説1 つきたい力の明確化や教材教具の工夫をすれば、学ぶ意欲が高まるだろう。

仮説2 学び合いを生み出す展開の工夫をすれば、「わかった」「できた」と実感するだろう。



つくろう！「読書」じまん

○読書に親しみ、目的に合った図書を利用する。

○場や取り組み方を工夫し、読書の質を高める。

- ・読書月間
- ・職員の読み聞かせ
- ・トトロお話し会
- ・国語読書教材
- ・委員会活動
- ・調べ学習等

週末「親子読書」に
力を入れる時期

低学年：読み聞かせ

高学年：同じ空間（居間・

図書館等）で親子で読書



つくろう！「学び」じまん

〈授業〉

○**友だちの意見と比べながら聴き、話す。**

(「～に付け足して」「～さんと似ている」等)

○今までの学習を生かして、課題に取り組む。

〈自己肯定感の高まり〉

○仲間の成長やがんばりを認め、讃える。

○自分の成長やがんばりを自学し、自信をもつ。

〈家庭学習〉

○一年間の学んだことを振り返る。

○予習・復習や新聞の切り抜き等、自主学習に進んで取り組む。

見せ合い授業

1つ上の学年の授業を
見ます。発表の仕方や
聴き方、反応の仕方な
どを学びます。そして、
一年間の学びの足跡を
振り返ります。



掛川市立 中小学校 平成27年度 我が校のものがたり

- ・ 中小では、子ども達の学力向上に向けて、進んで学ぶ子を育てていきます。
- ・ 子ども達の進んで学ぶ意欲を育てるために、「できた」「わかった」がいっぱいの授業づくりを進めます。
- ・ まとめ、振り返りの時間を大切にした授業過程の再構築、だれもがわかる学びのユニバーサルデザインを大切にして授業を進めます。

「進んで学ぶ子」 を育成するために

〇〇「まとめ」「振り返り」の時間を大切に
した授業過程の再構築
だれもがわかる、学びのユニバーサルデザインの重視

③ 振り返る

- ・ 学びの振り返り（自分の学びの自覚）と認め合い
- ・ 「できた」「わかった」の達成感の積み重ね
- ・ まとめ・振り返りの時間の確保



伝えたい
考えたい

① 押さえる

- ・ 学びたい考えたいという意欲を持てる学習問題
- ・ 短時間で誰もが分かる学習問題提示の工夫
- ・ 「やってみよう」という思いをもつような仕掛け
- ・ ねらいに迫るための課題設定
- ・ つけたい力の明確化、子どもとの共有化

「できた」「わかった」が
いっぱいの授業

— 学力の向上を目指して —



できた
わかった

② 仕掛ける

- ・ 思考を整理し、「できた」「わかった」につながる板書作り
- ・ 自分の考えを作る活動の位置づけと個への支援
- ・ 温かい聞き方、わかりやすい話し方の実践



学びたい

学習の構えづくり 安心感のある学習環境づくり

学習の構えづくり

◆学習の構え作り

- ・学習用具を揃える
- ・話し合いのルール作り
「温かい聞き方、わかりやすい話し方」の実践

◆基礎学力向上プロジェクト

- ・スタディテスト（週2回）
- ・とことんテスト（長期休業前）の実施
- ・中小日記（週2回）、思い出作文（年10回）
- ・放課後学習支援（年8回）、すいすい教室（年3回）

◆読書生活の充実

- ・朝読書、読書週間、必読図書読破、読書の足跡
「読書が好き」⇒年度末目標90%

◆保護者と連携した家庭学習の充実

- ・お茶の間学び発表会
- ・城東学園家庭学習7か条の重点目標
「学年目標時間（10分×学年+10分）学習ができた」⇒年度末目標85%

◆学年キラリの花発表、学び発表会（1月）

- ・達成感・認め合う力の醸成
- ・思考・判断・表現力の育成

落ち着いて安心感のある学習環境づくり

中小びざ5つのキラリ

4つのステージで
重点的に指導

- 1 大きな声であいさつをします。
- 2 友達を大切にしたい呼び方をします。
- 3 正しい言葉遣いを身につけます。
- 4 校内は右側を歩きます。
- 5 「きれいだいすき」のそうじをします。

「家であいさつができる」

⇒年度末目標80%

「だいすき掃除ができる」

⇒年度末目標95%

◆認め合う力を育てるキラリの花活動

- ・昼の放送、帰りの会での紹介、教室掲示
- ・友だちや自分のよさを振り返る道徳授業
「自分にはよいところがある」 ⇒年度末目標75%

◆キラリ賞

- ・学校全体での子どもたちのよさの賞揚

◆スポーツタイムの充実

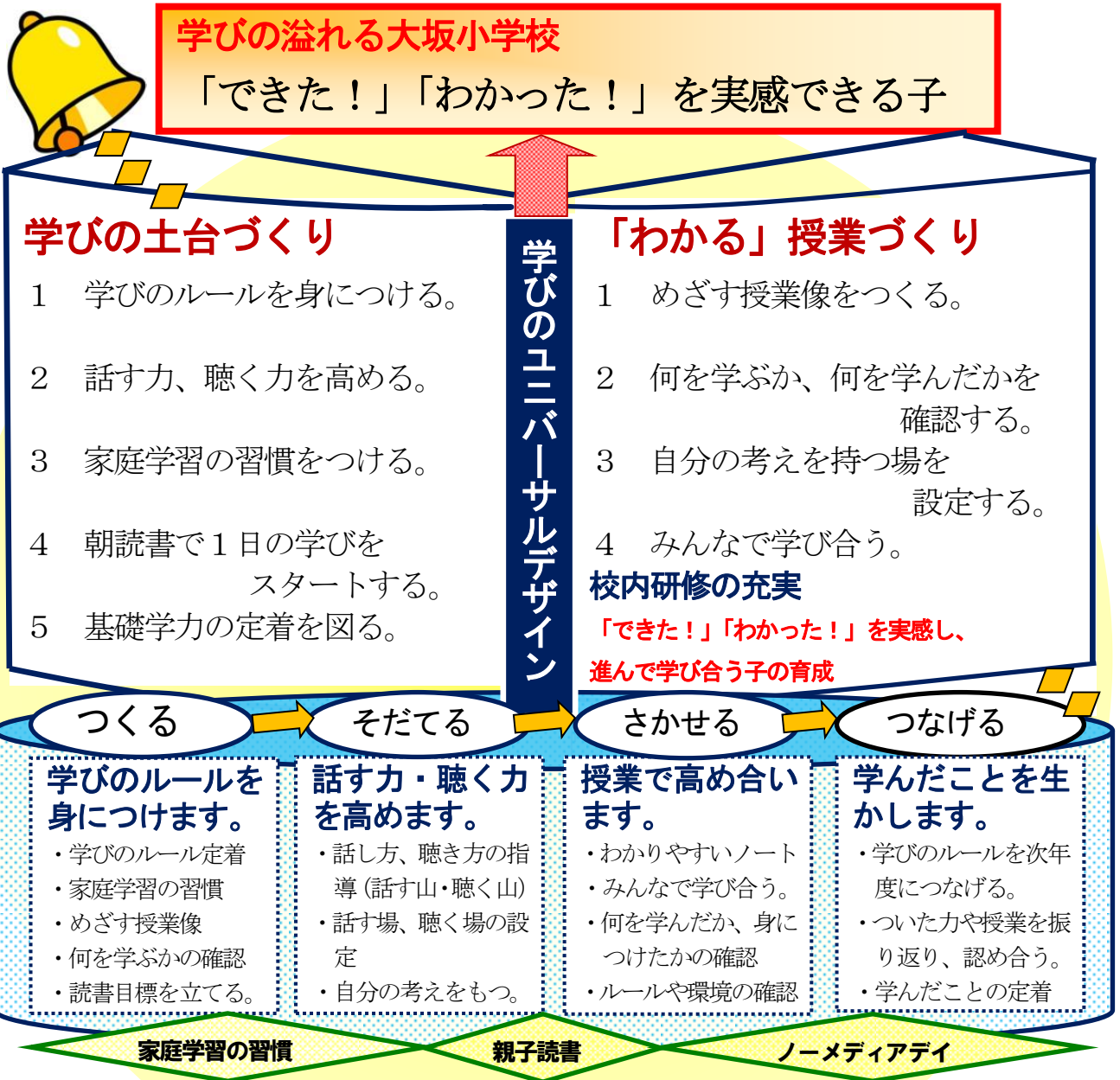
- ・ドッジボール大会（6月）、仲よし長縄集会（7月）
- ・リレー大会（隔月第4金曜日）
- ・体力アップコンテスト8の字長縄大会（1月）
スポーツタイムが楽しい⇒年度末目標90%

掛川市立大坂小学校

平成27年度 我が校のものがたり

学校教育目標「心の鐘をひびかせる子」に向かい、他と関わり合う中での個の確立を目指していきます。平成27年度は「自己肯定感・自己有用感を高める」ことに重点をおき、「自分でもやれる」「自分が必要とされている」等、今の自分の有り様を率直に認め、そこから出発して、周囲の人に期待され、力になろうと努力する児童の育成に努めていきます。

「学びづくり」の取組では、『できた!』『わかった!』を実感できる子の育成を目指します。全職員が、学びのユニバーサルデザインを意識し、①学びの土台づくり ②「わかる」授業づくりの両輪により確かな学力の育成を進めていきます。



「開かれた学校」 家庭・地域の支援と協働で子どもを育てる大浜中学校区学園化の推進

○子育て5か条 ○学校公開 ○交流連携活動 ○学校評議員会・大坂小教育を語る会 ○地域素材の教材化

大坂小学校の学びのものがたりがはじまりました。

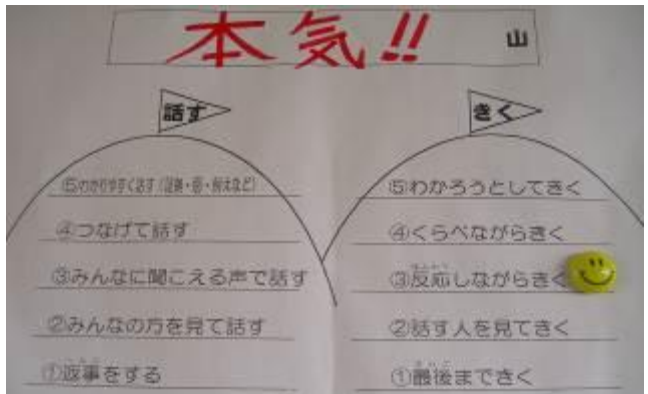
つくるステージは、学びのルールを身につけます。



めざす授業像決定! 各学級話し合って決めました。

筆箱の中身は、筆箱の位置は……学習の構えをつくるために、**学びのルール**を一つずつ身につけています。

そだてるステージは、話す・聴く力を高めます。



「私は、こうだと思
うんだけど…」

話す山・聴く山、レベルアップを目指します。



めざせ! 発表・反応名人!
話し方や聴き方を学び合います。

さかせるステージは、授業で高め合います。

つなげるステージは、学んだことを生かします。

学びのものがたりはつづく……

掛川市立千浜小学校

平成27年度 我が校のものがたり

三感(実感・感動・感謝)を大切にした教育活動を目指し、各つくり部で以下の取組を行う。

1 学びつくり部の取組

「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を視点とした授業改善

(1) 授業改善

- ①実態の把握(押さえる)
- ・子どもの実態をつかむ
(児童の振り返りなどから)

- ②目標とゴールを明確にした単元構想
や1時間の授業の組立(仕掛ける)
- ・単元構想
 - ・実態に合った発問
 - ・言語活動
(思考の場、表現の場の設定や工夫
学びの発表会)

- ③思考を大切にした板書や
振り返り(確かめる)
- ・思考やまとめのヒントになる
板書
 - ・振り返りの時間の確保と工夫

(2) 基礎学力定着の支援

- ①伝える(表現する)指導・支援
- ・各学級で、実態に応じた
聴き方、話し方の具体を
子どもたちと作成
- ②読書の充実
- ・毎週月・木の朝読書、水曜の読み聞かせ
 - ・学年に応じた必読書の設定、カードを用
いた読書活動の推進
 - ・司書教諭と連携し、学校図書館を
活用した授業の推進

- ③ドリルタイム・たしかめテスト
- ・毎週火・金の朝活動でドリル
学習を設定
 - ・年間5回、基礎力を中心に活
用力も問うテストの実施

学ぶ楽しさが
実感できる授業を
展開し、確かな
学力を育成する

(3) 家庭との連携

- ①家庭学習の方法についての支援
- ・家庭学習の手引きを配布
 - ・家庭での学習習慣作り
 - ・家庭学習時間の意識化(学年×10分+10分)

2 心づくり部の取組

価値ある自己決定、共感的な人間関係の育成

(1) 行事に燃え、 行事を通して感動体験

- ①学級での目標を設定
- ・どのような学級にしたいかを話し合い、学級の活動の拠り所となる目標を設定

- ②自分の目標の設定
- ・自らの目標を明確にした行事への取組
 - ・各行事でめあて・振り返りのカードを活用
(運動会、水泳、干浜っ子種目、マラソン、長縄、縄跳び)

(2) あたたかな 人間関係づくり

- ①子どもの実態把握、
人間関係づくりプログラムの実施
- ・児童教育相談を実施し、子どもの現状を把握
 - ・人間関係づくりプログラム、構成的エンカウターの実践
→思いやりある人間関係の育成

- ②話し合い活動の充実
- ・よりよい学級にするための話し合い活動
→自治力の向上(係活動や当番活動、学級ルールの決定、学級集会など)

支持的風土の
ある学校・学級づく
りを通し、豊かで健
康な心身を育成する

(3) 道徳教育の推進・地域との連携

- ①教育活動全体で行う道徳教育
- ・花壇活動 ・かけがわ道徳 ・地域の偉人から学ぶ
- ②地域の人材を活用したクラブ活動
- ・地域の方の指導(茶道、紙すき、グラウンドゴルフなど)
- ③地域支援コーディネーターとの連携
- ・地域の方の教育活動への参加(生活科の野菜作り、家庭科のミシンの先生など)

掛川市立横須賀小学校

平成27年度 我が校のものがたり

1 主役である子どもたちへ

(1) 基礎基本の定着

ア 少人数指導、チームティーチングの充実

3年生から6年生までの算数で2C3Tの少人数指導を行う。一人一人にあったきめ細やかな指導を心がける。

2年生では、算数でTT指導を行う。それにより、低学年での基礎基本の徹底を図る。

4年生から6年生の理科でTT指導を行う。それにより実験観察などの体験的な学習を積極的に行い、理科好きな子を育てていく。さらに安全面にも十分な配慮を行う。

イ たしかめテストの実施

長期休業前に「たしかめテスト」として、学校で統一して日を決め、自作の国語と算数のまとめテストを行う。問題の質や結果を研修推進委員会等で検討し、より効果的な取組となるようにする。また、テストを自作することにより、授業改善への職員の意識を高めていく。

ウ めざせ！聞き名人・話し名人

話し方・聞き方の基本形を各教室に掲示し、上手な話し方・聞き方の基本形として全校校同一步調で指導し、言語活動の基本としていく。

(2) 言語活動の充実

授業の最後に本時に学習したことを教科言語を使って、自分の言葉でまとめるための時間を十分にとるようにする。そのことを意識した横小授業スタイルを示し、かけがわ型スキルを意識した言語活動重視の授業展開を行う。集団追究における子どもたちに対する教師の意図的な働きかけを研究し、子どもたち自身が主体的に集団追究に取り組めるような展開をしていく。

(3) 学校図書館教育の推進

司書教諭や学校司書とのチームティーチングを各学年で積極的に取り入れ、学校図書館を活用した授業を推進する。また、保護者ボランティアによる読み聞かせ、図書館の環境づくりなど、読書に親しむ活動を積極的に行う。火、水、木曜日の朝の10分間を全校「読書タイム」と位置づけ読書の日常化を図る。

横小授業スタイル

段階	○児童の表れ・活動	○教師の押さえ所・ポイント
つかむ (5分)	学習課題 「あれ？なんでだろう。」 「昨日のやり方では、できない。」 「解決したい！」	・身近な話題のものや数を口にした学習課題を提示し、意欲を持たせる。 ・既習との比較等から、「？」(=ねらい)を引き出す。
つくる (5分)	学習問題 「〇〇の方法でやってみよう。」	・数人の「？」(=学習問題)を聞き返したり、書きぶったりして、全体の「？」にしておく。
ふかめる (20分)	【個人追究】 「矢印や図を使ったら、わかりやすい。」 「ヒントカードで、わかった。」 【集団追究】 「〇〇さんに似ていて、・・・」 「ぼくは、～です。わけは、・・・」 「〇〇さんに付け足して、・・・」 「～とすると、～だから、・・・」	・解決する方法をいくつか見通し、キーワードを板書する。 ・困っている子どもへの個別指導と、意図的指名のための個々の把握をする。 ・伝える力をつけるために、少人数で意見交換をする
まとめる (15分)	まとめ 「〇〇が、〇〇だとわかったよ。」 【練習問題】 「わかった！できた。」 「もう少し挑戦してみよう。」	・意図的指名による発表の中から、キーワードとなる部分やつきたい力わかる板書をする。 ・ネームプレート等を使い、所属感を持たせる。 ・切り返しや聞き返し等をする中で、学習問題の答え(=つきたい力)に収束させる。 ・つきたい力を穴埋めにしてまとめたり、板書のキーワードを使って自分の言葉でまとめたりする。 ・簡単な練習問題を2～3問出題し、個々の学習の定着を図る。

項目	平成26年度	平成27年度目標
年間貸し出し冊数	約18,000冊	20,000冊

また、読書量だけではなく、良書を紹介していくなど読書の質を高めるための取組も行っていく。



(4) 学習を支える体制環境作り

ア「横小しぐさ」の徹底

落ち着いた学校生活が、学習に取り組む姿勢につながると考え、互いを思いやり尊重し合える人間関係作りを目指し「横小しぐさ」を生徒指導の柱として実践していく。



横小しぐさ 10キラリ

横須賀小学校に10個の星が輝くように、「横小しぐさ 10キラリ」に取り組みましょう。横小全員で、「笑顔・夢・感謝」をめざし、横小しぐさを増やしていきましょう。みんなの力で、横小をキラキラと輝かせましょう!

1	みんなが気持ちよく生活できるように、大きな声であいさつをしましょう。	
2	学校にありがとうの気持ちを込めて、掃除は黙って行いましょう。	
3	友達が笑顔で生活できるように、ちくちく言葉を減らし、ばかばか言葉を減やしましょう。	
4	友達を大切にするために、友達の名前を「さん」づけしましょう。	
5	みんなが安全に過ごせるように、廊下は右側を歩きましょう。	
6	友達の思いがわかるように、話を最後までしっかり聞きましょう。	
7	全校の友達の名前を覚えるように、名札をつけましょう。	
8	みんなが生活しやすいように、準備や片づけをしっかりと行いましょう。	
9	たくさんの友達ができるように、休み時間(きりやタイム・昼休み)は外で仲良く遊びましょう。	
10	みんなが気持ちよく生活できるように、係活動や委員会活動に喜んで協力しましょう。	

「横小しぐさ 10キラリ」は、友達や周りの人たちを思いやる行動です。他にもいろいろな思いやりの行動があります。周りの人たちの心が「ばかばか」になる行動をして、横小を「あったかい」学校にしていきたいと思います。

イ ほめチア大作戦



自尊心や規範意識を高めたり、自立心を育み積極的に学習に取り組む子を育てることを目指し「教師も子どももお互いを褒めて認めていこう」と全校で「ほめチア大作戦」に取り組んでいる。職員は「ほめチアバッチ」子どもたちは「ほめチアシール」を名札に貼り、お互いに「ほめチア」を意識するようになっている。そして「認められて育つ集団」作りを行っている。

2 家庭や地域へ

(1) 家庭学習の習慣化

大須賀中学校区学園化構想でリーフレットを作成し、家庭学習の習慣化を図るために呼びかけを行う。懇談会や学年・学級便り等でも家庭学習の話題を取り上げ、家庭学習の大切さについて話し合い、保護者に家庭学習に対する関心をもっていただく。

(2) ネットルール7つのやくそく

《学力の高い子 掛川の法則》にも「携帯電話やスマートフォンを持っていない、又は使用時間が少ない」ことが挙げられている。SNSやインターネットなどの問題が小学校でも大きく取り上げられている。それを踏まえ、本校ではPTAと協力し「ネットルール7つのやくそく」を全家庭へ配布した。また、4年生以上には、親子携帯教室も計画し、情報モラル教育に力を入れ、健全で上手なネット利用ができる子どもを地域と協力して育成していく。

おやこ まも るんしん
親子で守って安心!

ネットルール7つのやくそく

- 1 使う時間と場所は、お家の人と相談して決めます。
(子どもだけでは使いません。夜9時以降は使いません。)
- 2 ネット上でもメールでも、人をだましたり、ばかにしたり、悪口を言ったりしてはいけません。友達とトラブルになったときは、顔を合わせて話し合います。
- 3 相手やそのお家の人に直接言えないようなことをメールしてはいけません。
(友達を傷つける書きこみはしません)

(3) 実態アンケートの実施

年間4回の子どもアンケートと、保護者アンケートにより、子どもや保護者の学校の生活や授業への考え方、家庭の生活の様子を把握し分析する。分析結果は学校便り等で保護者に知らせ、学校の新たな取組、家庭学習の大切さについて御理解いただく。

掛川市立大淵小学校

平成27年度我が校のものがたり

行ってらっしゃい!



おはよう!



1 わくわくタイムでミニ鍛錬

- 月、木、金曜日の朝 5分
- 漢字5問テスト（月曜日）
読解・計算のドリル学習（木・金曜日）
- 漢字・計算・読解力の向上を目的に実施



- ・漢字が書けるようになった。
- ・主語・述語・修飾語がわかった。
- ・計算問題がとけた。

2 いきいきわくわく楽しい授業

大きな思いを進んで伝える子

- ・交流・相談の場で発言する。
- ・自分たちで楽しい授業をつくる。

地域で生きる力
体験学習

まえむきな子

- ・やさしいパワーであたたかな空気をつくる。
- ・気持ちのよい1日の生活をつくる。

つよい気持ちをもってがんばる子

- ・行事に向けて団結する。
- ・具体的な目標を持ってチャレンジする。



- ・〇〇やってみよう。
- ・〇〇をやってみよう。

- ・それいいね。
- ・まだまだもうちょっといける。

- ・みんなでやって よかったね。
- ・つぎは どうしようかな。

3 放課後学習支援 寺子屋タイム

- 毎週金曜日の放課〔個別指導などの時間〕
- 補充学習・テスト直し・宿題等
- 子どもの学習支援を目的に実施

- ・～ができなかったけどできたぞ。
- ・～がわかったよ。
- ・宿題のここが難しかったな、でもわかってよかったな。



4 わからなかったことがわかるマスターテスト

○6月・11月・2月

○学習した範囲の漢字・算数の基礎基本の定着を目的に実施

- ・合格目指してがんばるぞ。
- ・1回目はわからなかったけど、2回目はわかったよ。



5 長期休業中の学習支援

○夏休み・冬休み

○学習内容の補充・夏休みの課題支援を目的に実施

- ・～ができなかったけどできたよ。
- ・パソコンを使った調べ学習ができたぞ。
- ・理科の顕微鏡を使った研究ができてよかったな。



6 心の栄養「読書活動」

- ・読書活動の実施（わくわくタイム終了後）
- ・読み聞かせの実施（毎週火曜日）
- ・読書の日（毎月23日）
- ・図書ボランティアの活動
- ・大渕小の30選の推奨

保護者の協力

- ・親子読書のすすめ
- ・教育相談

（いつでもどこでも）



心の誘惑
TV・ゲーム等



- ・読書は自分の想像の世界が創れて楽しいよ。
- ・読み聞かせは、楽しみ。だって、お話の世界に入れるよ。

今日も楽しい1日
だった



どんどん伸びるぞ

- ・安心して勉強することができるよ。
- ・困ったとき支えてくれる仲間がいるよ。
- ・みんなでのばしていきたい。
- ・みんなといっしょに考えてみたい。

かがやく 大松の子

中 学 校

掛川市立栄川中学校

平成27年度 我が校のものがたり

生徒の実態

本校には、まじめな生徒が多く、学習に対しての意識も高く、意欲的に学習に取り組むことができる。また、家庭学習も目的をもって取り組むことができ、定着度も高い生徒が多い。しかし、自分の意見をもっていても、それを表現しようとする態度や、聞き手を意識した表現には課題がある。

そこで、栄川中学校では、子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、これまで進めてきた栄川中学校区幼・小・中一貫研修や我が校の生徒の実態にあった研修をもとに、以下のことに取り組みます。



栄川中学校の学力向上を支える「3本の矢」

1本目 意欲的に考え、表現する生徒を育てる授業づくり

- 学びのユニバーサルデザイン（焦点化・視覚化・共有化）の考え方を取り入れた授業を構成し、「わかる・できた」という喜びを感じさせる。特に、焦点化・視覚化という観点から、各授業において、もっとも中心となる学習課題や学習問題を赤枠で囲むことや、取り組む時間を確保し、まとめは青枠で囲むことを全校の統一事項として授業を構成していく。
- つけたい力を明確にし、その育成を目指した言語活動を充実させる。特に、各授業において、学習指導要領との関連を明確にし、言語活動をつけたい力をつけるための「仕掛け」としてとらえ、また、話し方聞き方スキルを設定し、発達段階に応じたコミュニケーション力・表現力の育成を図る。
- 「授業づくり三原則」を意識した授業づくりを展開する

授業づくり三原則

- (1) 学習指導要領の目的や内容を明確に押さえて授業を行う。『押さえる』
- (2) つけたい力に沿って効果的な手だてを仕掛ける。『仕掛ける』
- (3) 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。『確かめる』

2本目

主体的に学習に取り組む態度の育成

- 定期テスト前1週間に学習相談の時間を設定し、個への対応をする。
- 生徒全員にやればできるという成就感を味わわせ、さらに基礎学力の定着を図るために、定期テストの2週間後等に基礎学力テスト（年5回・5教科）を実施する。

3本目

学校と家庭・地域との連携

- 栄川中学校区幼・小・中一貫研修『家庭学習の手引き』を中心とした家庭学習の充実を、家庭と連携して推し進めていく。
 - (1) 生活リズムを安定させよう。
 - ① 時刻を決めて学習に取り組む。(中学生：1日2時間以上)
 - (2) 学習環境を整えよう。
 - ① 部屋の中、机の上を片付け、学習に集中できるようにする。
 - ② 物を食べながら学習をしない。
 - ③ テレビや音楽、携帯電話の電源は切って学習する。
 - (3) 見届けと励ましをしよう。
 - ① 学習の様子を見る。(学習が終わったら声をかける。)
 - ② やることをきちんとやったときにはほめる。
 - (4) 「栄川中学校区子育て十ヶ条」を、年間を通じて実践しよう。
 - ① 大人から笑顔であいさつ、あいさつは「だいじ」の精神で。
だ・・・だれにでも
い・・・いつでも
じ・・・自分から
 - ② テレビ、ゲーム、メールに御用心！たまにはノーメディアデー
 - ③ 子どもも家族の一員・・・できることからお手伝い
 - ④ 大人が手本を示そう社会のルール
 - ⑤ 「ありがとう」、「ごめんなさい」で温かな家庭づくり
 - ⑥ 寝る前に読もう聴かそう本一冊
 - ⑦ 気づこう子どものサイン！かけよう大人の優しいひと声
 - ⑧ 早寝、早起き、家族そろって「朝ご飯」
 - ⑨ しっかりほめて きちんとしかる
 - ⑩ 教えよう一つの命の大切さ



掛川市立東中学校

平成27年度 我が校のものがたり



東中生の姿（現状）

- 行事や部活動、生徒会活動に精一杯取り組んでいる。
- あいさつ、服装・身だしなみが向上している。
- まじめな態度で授業に取り組んでいる。
- 学力のさらなる定着と家庭学習の習慣化を進めたい。
- 集団不適應による不登校（傾向）の増加が懸念される。



本校生徒の目指す姿（さらなる高みを目指して）

- 校歌が伝える東中の精神「平和と自主こそ揺るがぬ誓いぞ」

平和を脅かすいじめ、差別、偏見、暴力などをなくし、自分の手で平和な学級、学校、社会を絶対につくると、私たちは校歌を歌いながら宣言します。

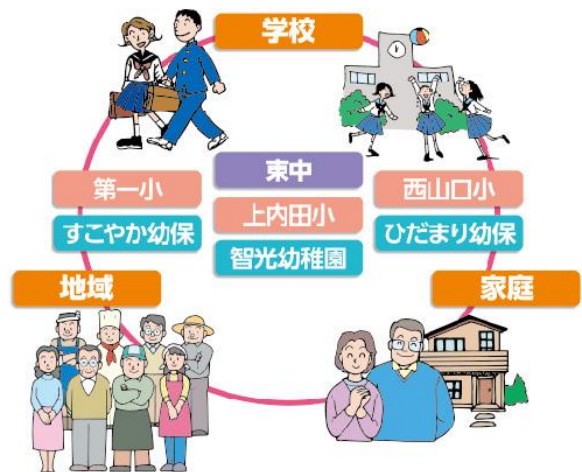
- 地域と共にある学校

中学校学園化構想「掛東学園」を基盤に、地域・家庭・教職員が一体となって生徒一人一人を育てます。

- 学び合う力の育成

グローバル社会に行く抜くために、他と関わりながらよりよく問題を解決していく能力の育成を目指します。

校歌	
三 天主の台下に 校旗は薫れり 愛なり 敬なり 修めよ 我が友 こぞれり この丘	二 葛の葉しげれる 輝く穂の波 天地の創造 磨けよ 我が友 こぞれり この丘
一 東海ひいずる 山脈めぐりて 平和と自主こそ 進めよ 我が友 こぞれり この丘	沃野のひろごり あふるる茶の香と この身にうけたり 文化は育てむ 桔梗は匂えり
真白き富士ヶ嶺 地平に到れり 揺がぬ誓いぞ さかしき道をも 桔梗は匂えり	
作詞 窪野桂 作曲 奥村進夫 （昭和二十八年二月制定）	



キーワードは「学び合い」

全ての教育活動で、「学び合い」を基本に取り組みます。また、取組を継続的に検証し、教育活動の改善につなげていきます。

転

東中アクションプラン

- 仲間と高め合う「学び合い」の授業
- 地域から学ぶ総合的な学習の時間「掛川学」
- 標準学力検査など客観的なデータ分析に基づく第三者評価の導入

仲間と高め合う 学び合いの授業

「話しかけやすい」「顔を見て話せる。」「気持ち伝わる。」
「みんなで協力して授業ができる。」等
仲間とつくり上げる授業をめざしています。



お互いの顔が見え、協力して授業ができるコの字型座席

学
び
合
い



やる気を共有し、考えを深め合う小集団



先生の熱の入った説明



みんなで追究したから自信をもって発表

授業改善について専門家（日本大学准教授）の指導を受けて進めます。

また、授業改善が確実に成果に結びついているか、毎年実施する学力調査、生徒アンケート等の経年比較を基に、第三者機関（静岡大学准教授）に評価を依頼します。



総合的な学習の時間「掛川学」

東中の総合的な学習の時間では、「掛川市」をテーマとして、地域や学校を知り、その上で地域や学校に関わる諸問題について考え、解決をしていく地域に根ざした学習「掛川学」を推進しています。

1年生「掛川を知る」



さまざまな施設を訪問した1年生フィールドワーク

2年生「掛川で働く」



地域の事業所で精一杯働く2年生

3年生「掛川について考える」



「区長さんと語る会」で地域の活性化について話し合う3年生

結

仲間との関わり合いの中で、どの生徒も「学びの充実」を実感する

最近、授業が楽しいです。話し合いも活発だし、発表も多いし、席がコの字だからわからないところを聞くことができるので良いです。去年とかは、わからないところがすぐに聞けなくて、発表とか自信なくてあまりしていなかったけど、今年は周りの人にすぐに聞けるし、自信もつくので発表しやすいです。また、聞く人も大きく反応してくれる人が増えてきたので良いなと思いました。

—生徒の日記より—

掛川市立西中学校

平成27年度 我が校のものがたり

第1章で説明されているように、本提言で定められている「確かな学力」は単純な知識量のみを指すものではありません。公教育では、目の生徒が将来社会に出て、その社会の中核を担うべき資質や能力を身に付けることを目的としています。つまり、少子高齢化・知識基盤社会・グローバル化が進展し、雇用形態が多様化するであろう社会で生きのびる事のできる資質と能力を育てる必要があります。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析などからみられる本校生徒の傾向
数値は各設問に「そう思う」と回答した生徒の割合

- ・学習に前向きに取り組んでいる。
- ・「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」
本校30.7% (県平均28.5 全国平均33.3)
- ・「家で学校の宿題をしていますか」
本校86.3% (県平均74.6 全国平均63.7)
- ・自分の考えを発表できても、それを筋道立てて説明をしたり、書いたりすることは苦手としている生徒が多い。

- ・「難しい事でも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」
本校22.9% (県平均16.2 全国平均17.0)
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」
本校74.6% (県平均73.4 全国平均72.8)
- ・何事にも前向きに取り組む、自分を肯定的に捉えている生徒が多い。

そこで、西中学校では

学校教育目標
心豊かに 磨き合う仲間

と

重点目標
思いやり 高め合い
感謝する心を大切にする生徒

の育成に努めます

また、各種研究・報告からも

学力向上＝知育ではなく、知育・徳育・体育は密接な関係にある。
学力向上には学校・家庭・地域との連携が必要。

とあります。

以上の事から、西中学校では次の四つの視点から、知育・徳育・体育を包括した全人教育を推し進めます。

1 学びの充実

これからの時代

「暗記中心、知識偏重の授業 教師から一方的に語りかける講義型」から

「自ら考え問題を解決する能力を身に付ける授業 生徒が能動的に参加する授業」へ

そのために

- 付けたい力を明確にした単元構想を大切にします。
- まとめの時間を授業の終わりに位置づけ、学習内容の定着を教師が見取ります。
- 意図的な小集団活動を取り入れます。
- 具体的な思考を助けるためにモノ、PCの積極的活用を進めます。

2 「心とからだの教育」の充実

人格形成の基盤となる、心と体の両面を育てます。

そのために

- 掛川道徳を推進します。
- 掛川市出身の方を講師に招き、本物の芸術にふれあう授業を実施します。
- 毎月19日を「報徳の日」とし報徳にちなんだ取組を企画します。
- 保健指導（性に関する指導等）を充実させます。
- 栄養士、養護教諭とのTT授業を推進し食育指導の充実を図ります。
- 新しい防災教育「手当てケア」を地域防災訓練で実施します。
- 週1回の「見つめる会」を通していじめや不登校対策等を検討します。

3 美しく安全で快適な学習環境の創造

豊かな人間性の育成のためにも生徒が学ぶ空間は、美しく・安全なものにします。

そのために

- 黙働清掃ならびに気付き清掃を推進し、生徒自らが快適な環境を作り出します。（創自）
- 校内外で明るい声が響き合うあいさつ運動を推進します。
- 心のこもった「美しいあいさつ」や「美しい言葉づかいと姿勢」を推奨します。
- 校内・教室に生徒作品の展示、学習に関する掲示物の充実を図ります。

4 地域に根ざした夢のある学校づくりの推進

学校と地域の双方向の連携をすすめ、ひいては学校・地域の活性化の原動力になります。

（学園化構想の推進）

そのために

- 読み聞かせ、図書、学習など学校支援ボランティアを募り教育活動に参加してもらいます。
- 防災訓練・リサイクル活動・公民館の清掃等、地域活動に生徒が積極的に参加します。
- 「あいさつでつながろう運動」「いじめ追放宣言」を地域へ広げていきます。
- 吹奏楽部、美術・書道作品等の出展など地区文化祭へ積極的に参加・協力します。
- 掛西学園内の4園・4校が協力して合同研修会を進めていきます。

掛川市立桜が丘中学校



平成27年度 我が校のものがたり

確かな学力の育成

○授業改善の視点(静岡県教育委員会)

- 1 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。・・・「押さえる」
- 2 付けたい力に沿って効果的な手立てを仕掛ける。・・・「仕掛ける」
- 3 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。・・・「確かめる」

○かけがわ学力向上ものがたり

- ・「新たな学びのプロセス」への転換
- ・言語活動の充実
- ・地域の人に学ぶ活動の推進
- ・読解力を伸ばす問題の作成
- ・読書活動の充実
- ・学力向上指標の提示

○中学校区学園化構想(桜が丘学園)

- ・家庭・地域等との連携を強化し、開かれた学校の一層の推進を図る。
- ・「すこやか子育て10ヶ条」の活用
- ・「桜が丘学園学習のてびき」の活用

学びの実感を積み重ねる「ものがたり」

○達成感の味わえる授業づくり

- ・学習課題の明確化
- ・課題設定の工夫
- ・具体物の活用
- ・板書の工夫
- ・まとめ時間の設定
- ・授業評価による授業改善

○確かな学力の定着

- ・基礎・基本の徹底
- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・家庭学習の充実
- ・朝読書の充実、図書環境の整備
- ・補充学習により学習の継続性を図る

○学習指導

- ・授業5原則の意識化
- ・基礎学習の実施
漢字・数学・英語の1Pノート
- ・チャレンジ学習(数学、英語の基礎学力テスト)の実施

生徒が活躍する授業づくり

〈 桜が丘中学校研修テーマ 〉 (道徳教育の抜本的改善・充実に係わる支援事業)

「やる気」「やさしさ」「たくましさ」をもった子どもの育成 ～確かな実践力を育む道徳教育の推進～

〈 道徳重点目標 〉

「自主・自律」 自分で考え判断し、責任ある行動のとれる生徒を育てる。

「勤労社会への奉仕・公共の福祉」 主体的に集団や社会に関わり、社会に役立つ生き方を目指す生徒を育てる。

〈 学年重点指導の内容 〉

全学年：自らの規範意識を高め、自らを律することができる。

1年生：自分で考え自分の意志で決定する。勤労の意欲や労を惜しまない気持ちをもつ。

2年生：自分にとっても他人にとっても良い行動を考えることができる。奉仕の精神で何かやりましょうかと言える。

3年生：自分の行為の結果に責任をもつ。どうすれば皆が幸せになれるかを考えることができる(公共の福祉)。

1 確かな学力の育成のために

(1) 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえる

学習指導要領を読み込み、授業で付けたい力を明確にし授業展開をする。学習指導要領に示されている目標や内容を確認し、付けたい力（単元(題材等)又は本時の目標)が明確な授業になれば、学習課題や発問、板書なども充実し、授業のまとめや確認の時間も有効に活用されると考える。生徒には授業の目標はもちろん、単元の進め方や1時間の展開の見通しをもたせることで、安心して授業に取り組めるようにしたい。

(2) 効果的な手立てを仕掛ける

付けたい力をもとに言語活動の「目的」「内容」「形態」「方法(時間や役割)」等を検討し、より効果的な活動を設定する。思考力・判断力・表現力を育むために、読み手や聞き手を意識して説明する場の設定を意図的に行い、根拠をもって伝えることができる力を付けさせたい。言語活動を有効に活用し、根拠に基づいて自分の考えを書く活動を位置づける。

(3) 学習内容の理解を確かめる場の設定

生徒が何を学び、何を身に付けることができたかを自分自身で自覚できるようにする。授業の終末に身に付けた力を発揮できるかを確かめる時間や場を設定する。1時間の授業を振り返ったり、単元の内容を振り返ったりする。また、単元の終末には練習問題やテストで確かめる。

(4) 生徒に学習の仕方を指導する

「効果的な勉強方法はどんな方法なのか。」に答えられるよう、学年部や教科群で検討し、生徒に指導する機会をつくる。校内研修で参考書の使い方や勉強時間の目安、いつ、何を学ぶべきかをより具体的に詳しく研修する機会を設けて「勉強しなさい。」から「こうやって勉強したほうがいいよ。」という具体的なアドバイスを与えられるようにする。授業中やテスト前に教科担任からはもちろん全職員で、生徒に学力向上の手立ての声掛けをできる体制を整える。

(5) チャレンジ学習

年4回、基礎学力テストを行う。教科は数学、英語の2教科で朝の会の終了後(テスト10分間、採点5分間)実施する。テストは3回セットで実施し、1回目と2回目はプレテストとし3回目をテストとする。3回目のテストではほぼ全員が合格となるように1回目と2回目のプレテストで指導を徹底する。テストの範囲は具体的に示し、あらかじめ類似した問題を基礎学習で学習できるように準備する。

(6) 家庭学習の充実

効果的な課題を設定して家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着とともに、自宅で勉強する習慣を付けるように指導する。具体的には、毎日の家庭学習として「漢字・数学・英語の1Pノート」に取り組む。これらを教科担任がチェックし、学習内容と提出状況を確認する。効果的な家庭学習を継続させることで確かな学力の定着につなげていきたい。

(7) 学習支援ボランティアを活用する

子ども育成支援協議会の学習支援ボランティアを活用し、放課後や長期休業時の学習支援をお願いする。本校職員との連携を図りながら、生徒一人ひとりに関わる人数を増やし、様々な視点で生徒を見取り、多様なサポートや励ましをして学力向上の一助としたい。

掛川市立原野谷中学校

平成27年度 我が校のものがたり

原野谷の里は、四季折々の美しい自然と世代を越えた人々の温かな心に彩られています。原野谷っ子は、純朴で、何事にも熱心に取り組めます。屋外では元気なあいさつ、屋内ではさわやかなあいさつが交わされます。学校の規模は小さいですが、仲間同士、気心が通じているよさがあります。一方、人間関係で悩みをもっている生徒も少なくありません。言われたことはできるのですが、自分で考えて行動すること、自分の考えを相手に伝えることを苦手としています。そんな原野谷っ子が、「心ゆたかに」「りりしく・かしこく・共に高め合う仲間」に成長することを我が校は目指しているのです。

校 訓 「心ゆたかに」

学校教育目標 「夢を抱き、汗を重んじ、感動求め、よりよく生きる生徒」

重点目標 「りりしく・かしこく・共に高め合う仲間」

校訓の「心ゆたかに」は、自己中心的になりがちな心を戒め、人の痛みを感じる思いやりの心、礼節を重んじる心をもつこと。こころざしは高く、社会のために役立とうと、自己を磨き、汗を流すことの尊さを諭している言葉です。

この「心ゆたかに」を生徒の姿としてとらえると「夢を抱き、汗を重んじ、感動求め、よりよく生きる生徒」となります。我が校に伝わる古文書には「夢は自己を磨き高める目標である。実現のために努力を惜しまず、感動へとつなげ、夢・汗・感動、この一連の体験の中で自己を見つめる。こうした体験を重ねながら、生き方を高め、将来の夢やこころざしを育む」と書かれており、昔から原野谷の里の子供達（原野谷っ子）が目指した姿なのです。



「りりしく・かしこく・共に高め合う」は目指す原野谷っ子の姿を飾る言葉です。

「りりしい原野谷っ子」は、「いじめはしない させない 許さない」正しい心をもっています。また、やさしい思いやりの心もち、感性に富んだ国際社会に貢献できる心をもっています。

「かしこい原野谷っ子」は、基礎・基本が定着しており、思考力・判断力・表現力を身につけています。

「共に高め合う原野谷っ子」は、自らの課題を粘り強く追究し、仲間との絆を深めながら、生涯を通じて主体的に学び、仲間と共に生き抜く力をもっています。

「りりしく・かしこく・共に高め合う」は互いに連動している飾り言葉です。「かしこい原野谷っ子」「りりしい原野谷っ子」を育てるためには、「共に高め合う原野谷っ子」も同時に目指さなければならないのです。「確かな学力」を身に付けるためには、その土台となる「健全な心」と「仲間との絆」が必要となるのです。我が校では、生徒、保護者、教職員が互いに連携し、原野谷学園の皆様の力を借りながら、原野谷っ子の心を育て、仲間との絆を深めながら、原野谷っ子の学力向上を目指します。

全国学力・学習状況調査では、日常生活と学力の関連性が指摘されています。読書の習慣や家庭における手伝いを行う割合が高ければ高いほど、学力調査の結果が良くなると言われています。〈学力の高い子 掛川の法則〉の分析結果からも、規則正しい生活習慣や家庭学習の充実が学力と関連していることが報告されています。調査の結果から、原野谷っ子は、言語活動や読解力の分野を苦手としていることも明らかになりました。家庭学習の状況も授業の予習を行っている割合が少なく、休日の学習時間も少ないことも明らかとなっています。

これらのことから、学力向上に向けた取組の重点をそれぞれ『学習の取組3ヶ条』『授業改善3ヶ条』『家庭環境力3ヶ条』にまとめました。それを生徒・保護者・教職員に提示し、共通理解をしながら取り組むこととしたのです。また防災教育やキャリア教育等も継続して力を入れ、原野谷っ子の学力向上を目指すこととしたのです。

1 取組の重点

(1) 『学習の取組3ヶ条』…当たり前前のことが当たり前前にできる心や態度を育てる

- ① 1分前には着席し、開始時刻に授業を始める
- ② 忘れ物をしない(授業の用具・提出物)
- ③ 人の話を聞き、積極的に活動(反応)する

(2) 『授業改善3ヶ条』…教職員が共通して『はらのや型』授業実践を推進する

- ① 学習問題の工夫
- ② 思考や表現のための手立ての工夫
- ③ 自分の言葉でまとめたことを活用・評価する場面の設定

(3) 『家庭環境力3ヶ条』…規則正しい生活習慣や家庭学習の充実を目指す

- ① 早寝・早起き・朝ご飯
- ② 毎日2時間以上の家庭学習をやり遂げる 家庭環境をつくる
- ③ 家庭の一員として仕事をもつ

2 その他の取組

- (1) 数学塾…数学の基礎学力の定着に取り組む
- (2) 朝読書…毎朝10分集中して読書を行い、「読む」ことの習慣化に取り組む
- (3) 1分間スピーチ…「自分の考えをまとめる力」「話す力」「聞く力」を育てる
- (4) 道徳教育・環境教育の充実
- (5) キャリア教育・防災教育の充実
- (6) 人間関係づくり…小規模校の特性を生かした縦割り集団の活動・交流

我が校には、「清麗の庭」と「清麗の鐘」があります。「清麗の庭」は平成元年に、「清麗の鐘」は平成6年に造られました。「清麗」とは、「学校生活が清く美しい状態であること、そして一人一人が希望をもつこと」を願ってつけられた名前です。朝と夕には美しい鐘の音が校庭に響きわたります。この鐘の音により原野谷っ子は心を落ちつかせ、今の自分を見つめ、未来の自分を思い描くのです。

この鐘は、原野谷っ子の夢や希望のシンボルとなっています。正面の門は未来への入り口を、階段状に積み上げられたレンガの塔は、人生の階段をイメージしています。塔の上に突き出た部分はこれから切り拓いていく道での様々な障害を表しています。未来へ羽ばたく原野谷っ子に、人生の中で出会うであろう幾多もの困難を乗り越える強い力を身につけるよう願いが込められているのです。この「清麗の鐘」が永久に清く美しい鐘の音を響かせて、原野谷っ子の心に潤いや夢を与えていくことでしょ。



このように、心を育てる取り組み、学力の向上を目指した取り組みを通して、原野谷っ子に「凜とした心」と「確かな学力」を身につけることができると考えています。授業の中で、「学びのユニバーサルデザイン」を意識した『はらのや型』授業を実践し、原野谷っ子の学びを充実させ、わかりやすい授業を行います。また、「かけがわ道徳」の授業にも全教員で取り組みます。

「凜とした心」の土台の上に「確かな学力」を築き上げること、原野谷っ子に夢やこころざしを育み、それを実現させることのできる「力」を身につけることを目指すことにより、「我が校のものがたり」が「原野谷っ子一人一人のものがたり」になっていくのです。

5 学力向上にむけての共通理解事項
 <教師が取り組む4項目>

- ① 力をつけるために振り返る場を設定
 - 授業スタート時に各教科の特徴に合わせたドリル学習を行います。
 - まとめ時に本時の学習と類似問題を解き、言葉でまとめます。
- ② 「あれ、おもしろそうだ」と興味を引く学習問題の提示
 - 生活に根ざしていたり、必要感を感じたり、興味を引く問題を設定します。
- ③ 小集団学習を単元構成の中で必ず位置づけ、授業内で練り合い、問題を解決する力をつける。
 - 小集団学習は、生活班毎、習熟度別、テーマ別など3人から4人を基本に、自己表現や意見交換の場とし、ホワイトボードはそのツールとして使用します。
- ④ わかりやすい板書の実践
 - 手順が分かり、問題解決に必要な情報を整理したわかりやすい板書を提示します。
 - 定規や線引きを使って丁寧に書きます。貼り付け可能なホワイトボードを有効活用します。

<生徒が取り組む4項目>

- ① 家庭学習は毎日確実に行う。
 - 基本の家庭学習は、漢字、英語、数学を1日1ページ以上行います。個に応じてノートのマス目を変えます。
- ② 自分の考えをきちんと書く。
 - 自分の考えは、文字にして書きます。他者に説明ができるように、図や絵も加えて工夫して書きます。
- ③ 仲間の意見を自分の考えと比べながら聞く。
 - なぜ違うのか、どこが違うのか、違いを見つけ、考えをぶつけ合います。
 - 考えの違いが分かるように、ホワイトボードにまとめます。
- ④ 分かるまで、できるまで取り組む。
 - 問題解決の過程を理解し、別の問題に出会っても解決できるように、まとめをします。
 - テストでは、完全解答作りを行います。

6 家庭や地域への働きかけとして

「冀北の教え 5か条」

- きまりを守ります。
- 進んであいさつします。
- 家族と地域を大切にします。
- 人にやさしくします。
- 夢に向かって努力します。



※イメージキャラクター 「きほくま」

※ 冀北精神は、生徒だけが目指すものではなく、職員や地域の皆様にも「冀北の教え5か条」として働きかけています。

掛川市立城東中学校

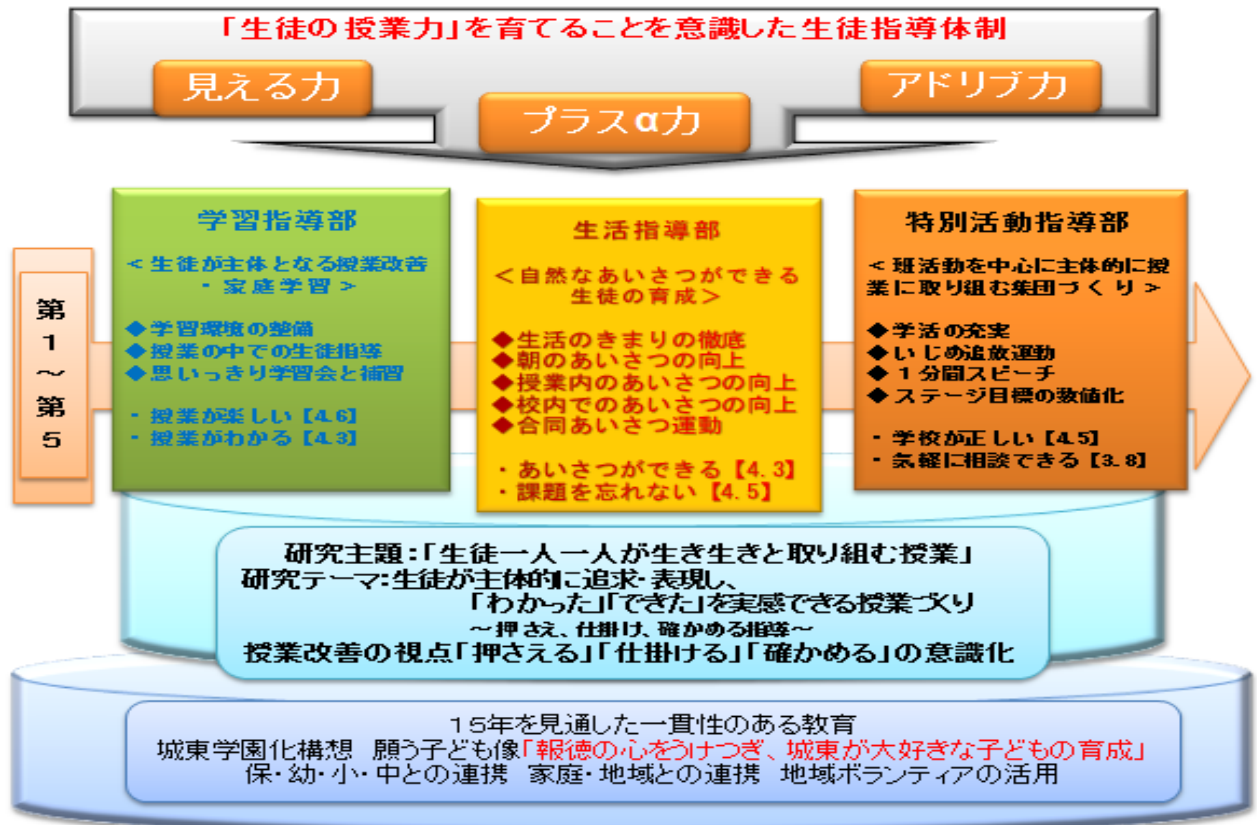
平成27年度 我が校のものがたり

序論・・・ものがたりのはじまり

「報徳の教え」を引き継ぐ城東中生 勤勉・姿勢・分度・推譲	鍛えていかななくてはいけないこと 基礎的な知識を活用する力・探究心
城東地区に生まれ育った城東中生のよさ 素直・やさしい・真面目	自ら課題を見つけて追究・表現する主体性

本論①・・・授業改善と城東学園化構想を切り口に

人間関係づくりを基盤に、生徒が主体的に取り組む態度を育成していきます。特に、「生徒の授業力」を高めていきます。「生徒の授業力」とは、生徒自身が個や集団として授業をより良いものにしていこうとする力であり、こうした力を、授業を中心とした教育活動全体において育成していくことに努めます。さらに、地域の教育力を取り込み、学校・保護者・地域が一体となって教育を進めていくことに努めます。



本論②・・・授業改善からのアプローチ

- ① 研修テーマ「生徒が主体的に追究・表現し、『わかった』『できた』を実感できる授業」を意識した授業づくり
「なぜ〇〇なのだろう」「どうしたら〇〇できるかな」という思いをもって主体的に追究・表現させることで、思考力や表現力を高めていきます。
- ② 振り返りの時間を大切に作る授業構成
授業で学んだことを最後に振り返らせ、「わかった」「できた」を実感させます。わかったことは生徒の言葉でまとめていき、授業の中で得た知識を確実に定着させていきます。生徒がノートやワークシートを見返したときに、既習事項を頭の中で整理させることで、基礎的な学力を更に高めます。
- ③ 個を大切にしたい指導・支援
赤ペンを用いた机間指導や支援を要する生徒に対する指導の工夫をします。また、国語、社会、数学の授業においてチームティーチングの授業を行います。つまずきのある生徒や内容の定着が不十分な生徒に対する個別支援を行います。

・・・城東学園化構想からのアプローチ

- ① 城東学園の教育力を活用
授業におけるゲストティーチャーや補充学習の支援者として地域の方を招き、魅力ある授業づくりと生徒の学力保障に努めます。
- ② 家庭学習の指導と確実な見届け
家庭の学習指導を、保幼小中で一貫して行っていくことを目的とし、「城東学園学習7か条」を各家庭へ配布し、それを基に各校種で子どもの発達段階に応じた内容を家庭へ働きかけていきます。

結論・・・めざす城東中生の姿

中学3年間でこんな生徒に育ててほしい

- 自ら考え、主体的に学び、探究することができる生徒
- 自分の意見をわかりやすく人に伝えることができる生徒
- 相互の意見を認め合い、自己肯定感をもつことができる生徒

将来はこんな大人になってほしい

- 生涯を通じて学び続けようとする人
- 多くの情報を適切に選択し、活用することができる人
- 周りへの気配りを欠かさず、良好な人間関係を築ける人



**報徳の心をうけつぎ、
城東が大好きな子どもの育成**

掛川市立大浜中学校

平成27年度 我が校のものがたり

1 今、学力向上に必要なことは？

平成26年度の結果から、本校の学力向上には基礎的・基本的な理解から取り組んでいくことが大切であるとする。また、生徒質問紙の状況からは、あたたかい人間性を持つ生徒が多いという良さも見られるが、将来の夢や目標を持っていないという課題も見られる。

夢や目標を育み、将来に向けた努力をしていく中で上記の課題を一つずつクリアしていくことで本当の自信が生まれて堂々と自慢でき、まわりからも認められるような生徒像を目指したい。

さらに、授業においては「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」生徒が県平均よりも多い。授業が充実していると感じている生徒は、教科を問わず平均正答率が高いことから、授業の中に充実した話し合い活動を展開していくことが必要である。



大浜中学校
マスコット
「リプル」

大浜中学校は、学力向上を目指すためにどんなことに重点をおいているの？

- 次の3つに重点をおいて、学力向上を目指しています。
- ・学習指導要領が求める学力を明確にした授業づくり
 - ・落ち着いた学校生活づくり
 - ・生徒主体の特別活動づくり



2 学習指導要領が求める学力を明確にした授業づくり

(1) 授業づくり

「ともに高め合い、学力を伸ばす授業づくり」～追究活動の工夫～

生徒が課題解決に向かって主体的に活動するために、教師が授業展開で追究活動の方法を工夫する。その工夫により、生徒同士で高め合う意欲的な活動となり、学力を伸ばすことができると考える。

追究活動

- (ア) 追究活動の時間確保
- (イ) 追究内容の明確化
(追究したくなる疑問を生み出す工夫)

生徒が生き生きと追究活動できる手立ての工夫
(例) 教科ごとによる小グループのメンバー構成
観察・実験等の活動で全員が役割をもつ手立て

導 入 (課題)	10分 以内
学 習 問 題	
追 究	25分
ま と め	15分 以内

ともに高め合い
学力を伸ばす授業
をみんなでつくら
う！



(2) 授業における学習四原則の意識化と学習ルールの徹底

- 1 学習用具・課題を忘れない
- 2 2分前着席を守る
- 3 集中して授業に取り組む
- 4 大きな声で元気よくあいさつをする

(3) 補充学習

- ア 放課後スタディ
- イ テスト前補充学習（予想問題等）
- ウ 長期休業中の学習会等

(4) 家庭学習

- ア 1ページ学習の実施
- イ 読み取る力、書く力の向上（新聞記事の感想を予定帳に書く言語活動）
- ウ 入試対策テキスト

(5) 読書活動

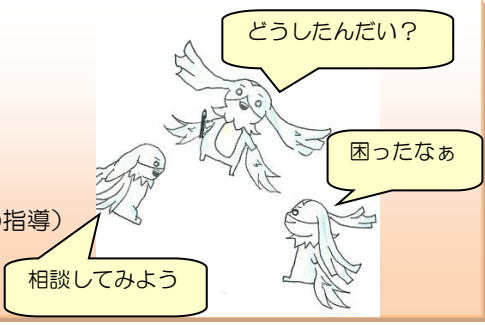
- ア 朝 8:00 からの読書で落ち着いた一日のスタートをする。
- イ 学校図書館司書との連携で魅力ある学校図書館づくりをする。
- ウ 読み聞かせて絵本の良さに触れる。

勉強って難しいけど、授業だけでなく補充学習も学校でやってくれるから嬉しいなあ〜。
よーし！
勉強頑張ろう！



3 落ち着いた学校生活づくり

- (1) 生徒と教師の信頼関係づくり：教育相談
- (2) 保護者と教師の信頼関係づくり：三者面談・参観懇談会
- (3) あたたかく、毅然とした生活指導による家庭からの信頼
- (4) 授業の中での生徒指導（みだしなみや机、ロッカーの整頓等の指導）
- (5) 教師の意識改革（人権意識等を育む指導）



4 生徒主体の特別活動づくり

- (1) 生徒が主体的・創造的な活動ができるように指導及び支援をする。
- (2) 生徒の頑張りの称揚…生徒作文、保護者の感想や来校者の言葉を有効に利用する。
- (3) 部活動の充実

大浜中学校区のみなさんで学校を盛り上げていきましょう！



家庭・地域との連携
 「大浜中学校区子育て5か条」「掛川お茶の間宣言」の実践に向け、子ども育成支援協議会の協力を得て、保幼小と連携する。また、参観会や三者面談等で、保護者に啓蒙することにより家庭学習の充実を図る。
 公共の施設に生徒の作品を展示し、足を運びきっかけをつくる。職場体験事前学習の講師を地元の方に依頼する。生徒を地域のボランティア依頼に積極的に参加させるなど、地域との連携を図る。



家庭・学校・地域

本校生徒は、明るく元気で意欲的である。さらに子どもたちの意識を高め以下の2つを目標に、職員も主体的・創造的に活動をしていきたい。
 ①仲間とともに切磋琢磨し、自慢づくりを基盤としたともに高め合う集団
 ②地域、保護者から信頼される学校

掛川市立大須賀中学校

平成27年度 我が校のものがたり

21世紀になって14年。この14年間で社会は大きな変化を遂げました。

2001年	2015年
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータは一家に一台 ・携帯電話にカメラ機能が搭載 ・インターネット普及率40% ・アナログ放送とブラウン管テレビ 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータは一人一台 ・スマホで写真も動画も共有 ・インターネット普及率83% ・地上波デジタル放送と液晶テレビ 

これから10年後、20年後の社会は一体どのようなになっているのでしょうか。

この14年で、仕事の内容も方法も大きく変化しました。グローバル化の波です。今や、日本の企業の多くは海外に進出しています。人材、市場などにおいて、国内の限られた社会の中だけで解決できない問題が現れているということです。また、最新の技術も競争激化により、常に最新に書き換えられ、技術革新のスピードは想像ができないほど速くなっています。

この変化が大きい社会を生き抜くためには、これまでの、「何をどれだけ知っているか」という知識の記憶量だけでは通用しません。今、知識はインターネットを媒介に、十分すぎるほど世界に広がっています。この情報化社会では、タブレット端末やスマートフォンを通して、いつでも、どこでも、わずか数秒でその知識を引き出すことができるのです。

知識基盤社会では、ICT 活用力や思考力、問題解決能力やコミュニケーション能力を駆使して、他者と関わりながら情報を結び合わせて知識を生み出すスキルを育成しておくことが求められます。

そこで、掛川市では、今世界で求められているスキルとして6つの「かけがわ型スキル」を子どもたちに付けたい資質・能力として挙げました。

- | | | | |
|--------------|----------------------|---------|-------------|
| 1 思考力 | 2 問題解決力 | 3 意思決定力 | 4 情報の選択・活用力 |
| 5 コミュニケーション力 | 6 地域や社会で生きるためのキャリア体験 | | |



これらのスキルは、先生が黒板に書いたことをノートに写して記憶していくような知識伝達型の授業では育成されません。主体的で協働的な学びによって、身に付けられるこれからの21世紀を生き抜く力、「かけがわ型スキル」を育てることのできる学校や授業をどのようにつくっていけばよいか考え、大須賀中学校では、未来を見通した教育を考え始めました。

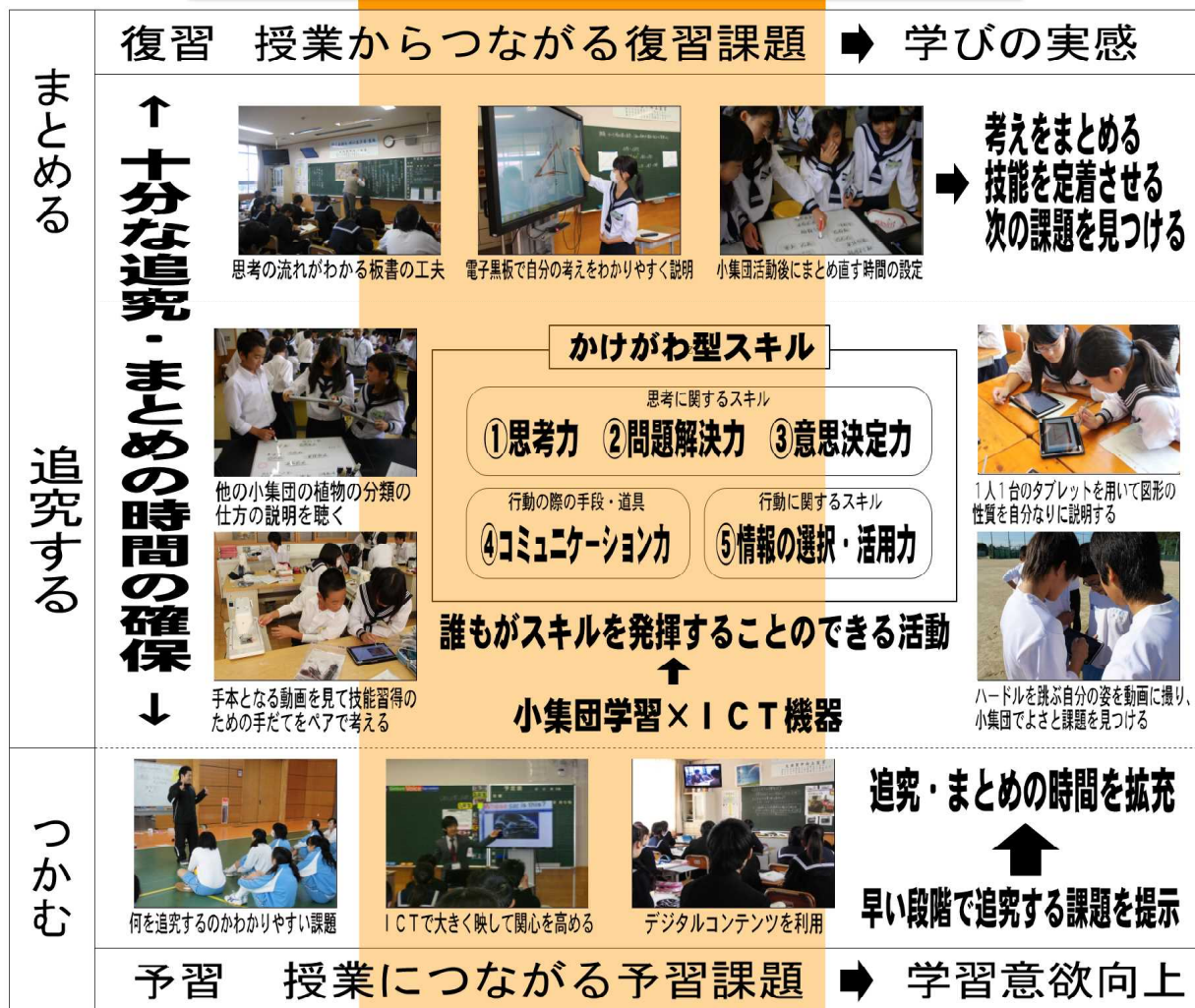
平成27年度研究テーマ

かけがわ型スキルの育成を目指して
 ～ICT機器を効果的に活用したおおすすめ型授業スタイルの確立～

おすすめ型授業スタイル

21世紀を生き抜くことのできる生徒

教科・単元で付けたい力が付いた生徒



単元構想の工夫(単元を貫く軸の設定)



21世紀を生き抜く力を育てる学校カリキュラム